特教研 G-10

共同研究

構音障害のある子どもが自ら学べる動画教材と配信技術の開発

－ことばの教室の担当者や子どものための
『ネットで学ぶ発音教室』の構築－
（共同研究機関：独立行政法人理化学研究所）

（平成19年度～20年度）

研究成果報告書

平成21年3月

独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

目　　次

Ⅰ．研究の概要…… 1
　１．問題と目的
　２．研究の全体構想と共同研究機関との連携
　３．研究経過

Ⅱ．動画教材作成過程…… 3
　１．動画教材の対象について
　２．インターネット配信に用いた技術

Ⅲ．動画教材の構成と内容…… 12
　１．動画教材の構成
　２．動画教材の内容

Ⅳ．動画教材の評価と改善…… 73
　１．動画教材の試用と評価アンケート
　２．評価アンケート結果
　３．評価アンケートのまとめ

あとがき

研究の組織

共同研究機関

独立行政法人理化学研究所

共同研究機関研究担当者

戎　崎　俊　一　（中央研究所　戎崎計算宇宙物理研究室　主任研究員）
金　子　委利子　（中央研究所　戎崎計算宇宙物理研究室　協力技術員）

研究協力者

青　山　新　吾　（岡山県教育庁指導課　指導主事）
堅　田　利　明　（大阪市立総合医療センター小児言語科　言語聴覚士）
瀧　澤　　聡　（札幌市立元町小学校　教諭）
豊　田　弘　巳　（町田市立鶴川第三小学校　教諭）
中　澤　洋　子　（長野県松本ろう学校　教諭）
藤　井　良　江　（町田市立鶴川第三小学校　教諭）

所内研究分担者

久保山　茂　樹　（企画部　主任研究員）　　研究代表者
小　林　倫　代　（教育相談部　総括研究員）

Ⅰ．研究の概要

１．問題と目的

国立特別支援教育総合研究所は５年ごとに言語障害特別支援学級及び通級指導教室の実態調査[1)]を実施している。それによれば、言語障害特別支援学級や通級指導教室を利用する子どもは増加傾向にあり、特に「言語発達の遅れ」のある子どもたちの増加が顕著である。また、この中には発達障害の特性のある子どもも含まれるなど、指導対象の子どもの多様化見られている。言語障害特別支援学級や通級指導教室を担当する教員は、量的にも質的にも拡大する教育的ニーズに対し、幅広い専門性[2)]の確保と維持が求められている。

このような状況の中、言語障害特別支援学級や通級指導教室が当初から指導対象としてきた構音障害のある子どももわずかながら増えているが、指導対象児全体の中に占める割合は減少傾向が見られる。

構音障害に対する指導には、誤り音の聞き分けや正しい構音を導く指導など特殊な専門的知識と経験を必要とする。しかし、言語障害教育担当教員のうち、経験年数３年未満の者が約４割を占めているという状況[1)]や、対象児が多様化する中、言語障害教育担当教員向けの研修講座の中で構音障害に関する内容は相対的に縮小される傾向があり、構音指導に不安を抱えている教員[1)]が多いのが現状である。

構音指導に関しては、市販されたテキスト[4)]やビデオ教材[3)]もある。しかし、テキストでは音を聞き分けたり、舌の動きや口形の変化等を視覚的にとらえたりすることができず、具体的な指導技法を学ぶには不十分である。また、言語障害のある子ども本人に自ら学ぶ意欲があってもテキストだけでは家庭等での学習に困難が多い。また、構音障害の状況は一人一人の子どもによって様々である。サ行音のみやイ列音のみに構音の難しさがあるなど子どもによってすべて状態は異なる。このため指導方法や指導順序も、一人一人異なるのであるが、現在のビデオ教材では必要な内容を必要な時に取り出し、組み立てるのが困難である。

このような現状をふまえ、本研究は以下の２点を目的とした。

① 言語障害児本人が、構音障害の改善方法を自ら学習し習得できるような動画教材を開発、提供する。こうした教材を提供することで、経験の浅い言語障害教育担当者の研修や知識・技能の向上にも資する。

② インターネット配信等を通して、構音障害に関する動画教材の中から、必要な時に必要な内容を容易に得られる手法を開発、提供する。

２．研究の全体構想と共同研究機関との連携

目的の達成のため、本研究では以下のような実施計画を策定し、独立行政法人理化学研究所と共同研究を実施することとした。

① 構音障害に関する指導に実績のある教員をモデルとして、構音障害の改善方法に関する動画教材（試案）を作成する。

② 動画教材（試案）を言語障害通級指導教室（幼児の教室も含む）等に試用と評価を依頼し、研究協議会でさらに検討する。

③ 上記②に踏まえ動画教材の改訂を行う。

④ 上記③で作成した動画教材をインターネットで配信できるよう加工する。

また、必要な時に必要な内容を選択し使用できるためのソフトウエア等や配信技術を開発する。理化学研究所が開発したReKOSが、その基本ソフトウエアとなる。

⑤　研究成果の提供（インターネット配信）を行う

これらのうち、本研究所研究分担者及び研究協力者は、主として上記の①②③⑤を実施する。理化学研究所研究分担者は、上記②④のうち動画教材配信システムに関する調査研究を主として実施する。動画配信に最適化した動画の撮影・加工、配信技術の検討については本研究所と理化学研究所とが共同で実施する。

３．研究経過

本研究は以下の経過で実施した。

○動画教材作成に関する試行と協議（平成19年４月～６月）

・カ行音の構音障害と指導に関する動画撮影とパソコン上での処理

・配信方法についての検討

○動画教材試案の作成（平成19年７月～平成20年３月）

・カ行音、サ行音、タ行音、ラ行音の構音障害と指導に関する動画撮影

・耳の訓練、異常構音に関する動画撮影

・動画処理方法の検討と字幕挿入作業

○研究協議会（平成20年３月15日）

・カ行音に関するWEBページ試案に関する協議

・使用する専門用語に関する協議

・動画教材の全体構成に関する協議

○動画教材作成の継続と修正（平成20年４月～平成21年１月）

・研究協議会の協議事項による修正

・構音検査、自己修正力を身につける指導、舌の脱力のための指導等の動画撮影

・WEB配信に最適な動画フォーマットの検討

○動画教材の評価と修正（平成21年1月～平成21年３月）

・仮配信した動画教材を、言語障害教育担当者や言語聴覚士に評価を依頼

・評価結果による修正

○動画教材の完成と配信開始（平成21年３月）

Ⅱ．動画教材作成過程

１．動画教材作成手続き

（１）動画教材の対象について

本研究では、構音障害のある子ども本人が学習できる動画教材の作成を計画した。しかし、研究開始後、研究協力者と協議を重ねる中で、「子ども向けの教材として作成すると内容が限られてしまう」「むしろ、言語障害教育担当者向けに作成し、それを子どもにも使えないかを検討すべきである」との意見が多かった。また、前述のような言語障害教育担当者の抱える課題に早急に対応する必要があった。

そこで、本研究では、比較的経験の浅い言語障害教育担当者を主たる対象とした動画教材を作成することとし、その教材が子どもにも使用できるかを検討することとした。動画教材の内容は、構音障害とその指導を網羅するものではなく、言語障害教育担当者が最低限知っておくべきことに絞ることとした。

（２）動画教材作成手続き

動画教材は、研究所内研究分担者と研究協力者のうち３名及び理化学研究所研究分担者が、以下のような手順で作成した。

①研究協力者（中澤洋子氏）によるテキスト執筆（表１）
②テキストの推敲と動画提示部分及び動画内容の検討
③動画撮影（図１）
④動画をパソコンに取り込んで編集し、必要に応じて静止画像や字幕を挿入（図２）
⑤テキスト及び動画をhtml形式のファイルに取り込む

図１　動画撮影（撮影前の準備の状況）

表１　動画教材用テキストの例（サ行音の構音指導）

	動画（音声と映像）	解　説
1	sa,sɯ,se,so ʃa,ʃi,ʃɯ,ʃe,ʃo sa,si,sɯ,se,so	ここではサ行音の構音指導について概説します。 サ行音は、歯・歯茎と舌先を構音点とする、無声の摩擦音です。 日本語の50音表では　サ行の音は、「さ、し、す、せ、そ　」となっていますが、このうち「し」は、他のサ行音「さ、す、せ、そ」に比べ構音点がやや後ろに移行した　歯茎硬口蓋と前舌を構音点とする摩擦音で、「しゃ行音『しゃ、し、しゅ、しぇ、しょ』のい列の音」とでも言うべき音です。 s行音のい列音は、「すぃ」という感じの音となります。
2	a,ɯ,e,o ta,tɯ,te,to ta,tsɯ,te,to tʃa,tʃɯ,tʃe,tʃo,tʃi ʃa,ʃɯ,ʃe,ʃo,ʃi Φa,Φɯ,Φe,Φo 口蓋化構音 側音化構音 単音および 単語（構音検査の単語の呼称で）	このサ行音の誤りとして見られるものは、 　子音sの省略による母音化 　タ行音への置き換え 　　タ行音への置換では、「さ・す・せ・そ」が「た・とぅ・て・と」となる場合と 　　「た・つ・て・と　」となる場合があります。 　チャ行音への置き換え 　シャ行音への置き換え 　ファ行音への置き換え 　口蓋化構音 　側音化構音　などです。 このうち、子音の省略、置換は、産生された誤り音は日本語の語音の中に存在する音であり、構音の仕方そのものに誤りはありません。 構音発達の途上にも見られます。 口蓋化構音、側音化構音は構音の仕方そのものに誤りの有る異常構音です。通常日本語の語音の中には見られない音であるため、平仮名や片仮名では書き表すことが出来ず、聴き取り難い耳障りな音に聞こえます。

	sa,ka,sa,ka,sa,ka,sa,ka ka,ka,ka,ka,ka,ka,ka,k a 口蓋化したsa,ka×４ sa,Ça,sa,Ça,sa,Ça,sa,Ça Ça,Ça,Ça,Ça,Ça,Ça,Ça, Ça 側音化したsa,Ça×４ 鼻息鏡 鼻息鏡を下口唇の下に当てて　側音化したsa	口蓋化構音と　カ行音への置換との鑑別 サ行音の構音点が後方（口蓋）に移動し、口蓋化構音になると、「カ行音に近いが、カ行音とは異なる独特の歪み音」に聞こえます。 この口蓋化構音を　カ行音と弁別をするためには、「さ」と「か」を交互に言うよう求めます。 誤って構音された「さ」の音が、「か」と同じであれば置換、異なれば口蓋化構音であると判断することが出来ます。 側音化構音と　ヒャ行音への置換との鑑別 サ行音が側音化構音になると、「ヒャ行音に近いが、ヒャ音とは異なる独特の歪み音」に聞こえます。 この側音化構音を　ヒャ行音と弁別をするためには、「さ」と「ひゃ」を交互に言うよう求めます。 誤って構音された「さ」の音が、「ひゃ」と同じであれば置換、異なれば側音化構音であると判断することが出来ます。 ただし、この鑑別方法は、「ヒャ行音は側音化構音となっていない」ことが前提です。 サ行音以外の音にも側音化が疑われる場合は、下口唇の下に鼻息鏡を当てて、左右の口角からの呼気の漏れの有無を確認します。
3	(耳の訓練は別立てて)	構音の仕方の誤りや産生されている誤音を正しい方法による明瞭な構音に改善していくために、正しい構音の仕方を指導するための方法を紹介します。 先ず、本来産生するべき正しい音と自分が産生している誤った音との違いが理解出来、正しい音や誤音を、自分や指導者の発話の中から聞き取ったり、 正しい音に対する聞かせ与えられた音の正誤や　組み合わされた２つの音の異同を聞き分けたりすることが出来るようになるための指導（耳の訓練）をします。 耳の訓練の詳細につきましては、別の章をご参照下さい。

4	実演 （指導者：ストローを前後にスライドさせる。） （悪い例：呼気吹き込み）	口腔内の呼気を、歯と舌先との間に出来た僅かな隙間を通り摩擦させて前下方へ出すための構えを作ります。 舌を口の外に自然に出し脱力した安定した状態を保ちます。 ストローを舌の真ん中にそっと置きます。 舌は出したまま、ストローを舌と一緒にそっと上下の唇で挟みます。 このとき、ストローに歯を立てたり、唇に力を込めたりすることがないよう気を付けます。 呼気をそっと出します。ストローの中に呼気が流れるシューという音が聞こえてきます。 ストローの先を指先で塞いだり開けたりすると、途切れる音により呼気が流れていることを確かめることが出来ます。 このとき、ストローに呼気を吹き込むことのないよう気を付けます。 次第にストローを抜き去っていきます。 舌は出したままで、口の構えも保ったまま、そっと呼気を出し続けます。 舌先から完全にストローを抜き去っても、舌先にストローを近づけるとシューという音がなるので、 呼気の流れを確かめることが出来ます。 この呼気に後続母音の「う」をつけて「す」を導きます。 舌は単音、その繰り返し、他の音と組み合わせて２音節や３音節の語頭、語尾、語中での練習を経て、単語中での練習に入っても、後続母音を言い終わるまで出したまま構音します。 単語中で誤りなく安定して構音出来るようになったら、次第に口腔内に収めていきます。
		口と舌との構えを作るためだけに、ストローを用いる方法もあります。 口形を「う」にし、舌を出し、ストローを出した舌の上に置いて抜き去ります。 舌の位置や口の構えを保って、そっと呼気を出します。 この呼気に後続母音の「う」をつけて「す」を導きます。

5	（か行音の構音指導へ飛べるように）	ｋｅｙ　ｗｏｒｄ法 通常は前後の音や語内位置にかかわらず発話の中で一貫して誤りが見られていても、ある特定の言葉を発するときにだけ、時として正しい音で発話することが出来るということがあったとき、その言葉を指導に用いる方法です。 Key　wordが見つかったら　先ず、安定的に　正しく構音された音を用いて発話出来るよう繰り返し発話させます。 続いて　少しずつ前に続く音を消去していきます。 それ一つの音で構音出来るようになったら、仮名文字等とマッチングさせるなどして意識化させ、出そうとして出すことが出来るよう指導します。 そしてその安定を図ります。 Key word法の実際については、か行音の構音指導の例をご覧下さい。
6	実演	「つ」からの誘導 「つ」は「す」と同じ構音点をもつ破擦音です。 舌が一瞬歯の裏に接触した後（破裂）、同じ構えで呼気が擦られ（摩擦）産生された音です。 「つ」を　後続母音をつけずに構音した後、そのままの構えで呼気を伸ばしていると、瞬間的に行われた破裂成分tはなくなり、摩擦されて出されたsの音が得られます。 この呼気に後続母音の「う」をつけて、「す」を導きます。
7	実演	「づ」からの誘導 「つ」やその有声音の「づ」が構音出来ていたら、「づ」を囁き声で言うように求め、無声化していきます。 子どもの意識は、「づ」を小さな声で囁くことですが、指導者が与える聴覚的刺激は「す」です。
8	（異常構音の構音指導は別立てで）	口蓋化構音　側音化構音は、舌の脱力、安定を得てから、音作りに入ります。 異常構音の構音指導の章をご覧下さい。

9	（実演は別立てで）	それ一つの音で出せるようになったらその安定を図ります。 前後にいろいろな単音を付けて組み合わせ、意味のない音の繋がりの中で練習します。 ３音以上の繋がりでは　真ん中の音としての練習が可能です。 付ける音によって難易度が変わります。 母音、子音、その中でも同じ後続母音をもつ子音、構音点や構音方法が同じ子音などの様々な組み合わせや、語内位置、発話速度などいろいろな条件下で十分に練習を積み習熟させます。 また、これまで誤って置き換えていた音と組み合わせての練習も必要です。 意味のない音の繋がりの中で安定が得られたら、ターゲットの音が初めに付く単語、最後に付く単語、真ん中に付く単語の中で練習し、次第に発話の量を増やしていきます。 早口で繰り返すなど負荷を掛けても誤りが見られなくなることを目指します。
10	（実演は別立てで）	構音指導の中では自己修正力を育てることも大切です。 発話の中で自分や指導者の構音の正しさを吟味して誤りに気づき、必要があれば誤りを修正することが出来るための力を育てます。 誤りの自覚は、誤った音を直接「違うよ」と指摘されたり、サインを送られたりして気づく段階から、言った途端に自ら気づく段階へと指導します。 自己修正については、モデルの音や構音の方法を見聞きして出来る段階から、工夫や努力なしに１回で出来る段階へと指導します。 本人や保護者の希望、転校や進学などによって早期に終了することが求められた場合、どのような状況下でもまったく誤りなく構音出来るまでに搬化、定着をみなくても、必要が生じたときに意識して言おうとすれば１回から数回の試みで正しい音に達することが出来る力があるかどうかが終了可否の目安となります。

単語呼称検査

語頭音単語　さかな　sakana　そら　sora　せみ　semi　すいか　sɯika

語尾音単語　バス　basɯ　ジュース　dʒɯːsɯ

語中音単語　ふうせん　ɸɯːseɴ　はさみ　hasami　ちいさい　tʃiːsai　うさぎ　ɯsa・i

図２　パソコンを用いた動画編集と字幕挿入

（３）動画撮影と処理方法

動画撮影はデジタルビデオカメラを使用し、デジタルビデオテープに収録した。これは編集の際、画質や音質の劣化が起きにくいよう無圧縮の状態で収録するためである。収録したビデオは、パソコンのハードディスク上に取り込み、編集した。編集に使用したソフトウエアは、ジャストシステム社製エディウスＪ/Ｒ２であった。ビデオファイル形式はaviとし、これをマスターデータとして保存した。

次に、インターネット配信に向け動画のファイル形式を検討した。まず、APPLE社のQuickTime形式を採用し、インターネット配信向けの仮ヴァージョンを作成した。この形式は画質、音質とも良好であり動画教材には最適であった。しかし、ファイルサイズが大きすぎ、インターネット配信の際、不都合が起こる可能性があった。また、ＤＶＤにも収納しきれないファイルサイズであった。

そこで、Adobe社のフラッシュを採用した。この形式では、QuickTimeに比べて画質、音質とも劣るが、ファイル圧縮率が高いのでインターネット配信には適している。変換レートを400kbpsに設定したところ画質、音質とも問題ないと判断できたため、インターネット配信用の動画はフラッシュを用いることにした。

２．インターネット配信の手続き

（１）インターネット配信に用いる動画形式

動画をインターネット配信すると閲覧者のパソコンによっては、新たにソフトウエアをインストールする必要が生じることがある。そこで、本研究では、Adobe社のPresenterをMicrosoft社のPowerPointにアドインして用い、動画を取り込んだhtml形式のファイルを生成するようにした。これにより、閲覧者はhtml形式のファイルをクリックすれば動画再生できるようになった。

図３．Adobe社製Presenter　による動画再生画面

（２）WEBサイト構築方法

インターネット配信用ＷＥＢサイトは、国立情報学研究所が開発したオープンソースウエアNetCommons.Ver1.1.3を用いて構築した。NetCommonsを利用することで、研究分担者と研究協力者がそれぞれの居住地にいながら、ＷＥＢページ作成できる利点がある。研究協力者がテキストデータをアップロードし、研究代表者が動画のアップロードとhtmlファイルの修正を行うという作業分担を円滑に、効率的に実施することができた。

（３）動画教材のURL

作成した動画教材は、国立特別支援教育総合研究所のサーバー上にアップロードした。WEBサイトの愛称は『ネットで学ぶ発音教室』とし、そのトップページを図４に示した。
URLは以下の通りである。

http://forum.nise.go.jp/kotoba/

図４．『ネットで学ぶ発音教室』トップページ
（現在のURLは、http://forum.nise.go.jp/kotoba/）

＜文献＞

1）国立特別支援教育総合研究所：平成18年度全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査結果報告書．2007

2）全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会：きこえとことば研修テキスト．2006

3）橋本一夫・麻滝康臣・三輪順康他：乗りこえよう発音障害２―家庭で楽しくおしゃべりレッスン．1997

4）湧井豊：構音障害の指導技法．学苑社．1992

Ⅲ．動画教材の構成と内容

１．動画教材の構成

（１）全体構成

動画教材は、『理論編』（構音障害ってなぁに？） ９ページと『実践編』（どうやって練習するの？）40ページで構成した。画面の左側には常にメニュー欄を表示し、閲覧者が閲覧したいページをすぐに選択できるようにした。

（２）理論編

『理論編』は、構音障害について言語障害特別支援学級や通級指導教室担当者が知っておくべき基礎理論の解説であり、以下の内容で構成した。

○構音とは、構音器官とは？
　・日本語の音の作られ方
○構音障害とは？構音発達とは？
○構音障害のいろいろな側面
○構音障害が疑われたら
○構音障害の診断
　・構音検査の方法
○構音障害の種類
　・鼻咽腔閉鎖機能
○誤り音の種類
○異常構音とは？

（３）実践編

『実践編』は、言語障害特別支援学級や通級指導教室で出会うことの多い構音障害（カ行、サ行、タ行、ラ行、異常構音の一部）について、誤り音と正音とそのメカニズム、構音指導の実際をテキストと動画で解説したものであり、以下の内容で構成した。

○はじめに
○構音指導の進め方
　・指導を深めていく
　・指導を拡げていく
　・指導のイメージ図
○耳の訓練とは
　・耳の訓練の実際
○カ行音とは
　・カ行音の誤り１
　・カ行音の誤り２
　・指導方法１
　・指導方法２
　・指導方法３
　・指導方法４
○サ行音とは
　・サ行音の誤り１
　・サ行音の誤り２
　・指導方法１
　・指導方法２
　・指導方法３
　・指導方法４
○タ行音とは
　・タ行音の誤り１
　・タ行音の誤り２
　・指導方法１
　・指導方法２
　・指導方法３
　・指導方法４
○ラ行音とは
　・ラ行音の誤り１
　・ラ行音の誤り２
　・指導方法１
　・指導方法２
　・指導方法３
○異常構音とは
　・口蓋化構音の指導
　・側音化構音の指導
　・舌の脱力のための指導
○搬化定着のための指導
　・指導方法

２．動画教材の内容

以下にインターネット上に掲載している実際の教材を示す。URLは以下の通りである。

http://forum.nise.go.jp/kotoba/

- トップページ
  - トップページ
  - 構音とは、構音器官とは？
  - 構音障害とは？構音発達とは？
  - 構音障害のいろいろな側面
  - 構音障害が疑われたら・・・
  - 構音障害の診断
  - 構音障害の種類
  - 誤り音の種類
  - 異常構音とは、
  - 構音指導の内容
  - 『実践編』トップページ
  - はじめに
  - 構音指導の進め方
  - 指導を深めていく
  - 指導を拡げていく
  - 指導のイメージ図
  - 耳の訓練とは、
  - 耳の訓練の実際
  - カ行音とは、
  - カ行音の誤り－１－
  - カ行音の誤り－２－
  - 指導方法－１－
  - 指導方法－２－
  - 指導方法－３－
  - 指導方法－４－
  - サ行音とは、
  - サ行音の誤り－１－
  - サ行音の誤り－２－
  - 指導方法－１－
  - 指導方法－２－
  - 指導方法－３－
  - 指導方法－４－
  - タ行音とは、
  - タ行音の誤り－１－
  - タ行音の誤り－２－
  - 指導方法－１－
  - 指導方法－２－
  - 指導方法－３－
  - 指導方法－４－
  - ラ行音とは、
  - ラ行音の誤り－１－
  - ラ行音の誤り－２－
  - 指導方法－１－
  - 指導方法－２－
  - 指導方法－３－
  - 異常構音とは、
  - 口蓋化構音の指導
  - 側音化構音の指導
  - 舌の脱力のための指導
  - 搬化・定着のための指導
  - 搬化・定着のための指導の方法
  - 自己修正力を育てるための指導

ようこそ　ネットで学ぶ発音教室へ！

ネットで学ぶ
発音教室
ことばの教室担任による発音指導の実際

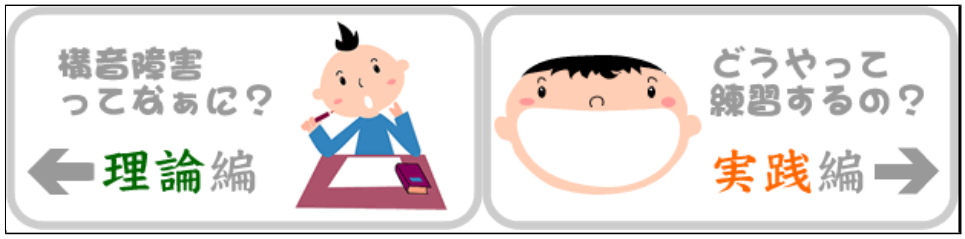
はじめてこのサイトをご覧になる方へ

このサイトは、発音が気になる、上手くできないという子ども達と
それを取り巻く保護者、教師のために作成されています。
今後少しずつ内容を充実させていこうと考えています。
このサイトも参考にしていただきながら、
何よりも子ども達を取り巻く方々の温かく誠実な対応、
適切で創意工夫に溢れた熱心な指導・支援によって、
子ども達の発音が改善し、
生活がより豊かで楽しいものになることを
願っています。

ちょっと試してみる？！（←クリックしてみて下さい）

保護者のみなさまへ

この「発音教室」では、発音のお話や練習の仕方をお示ししています。
どうぞ、ご覧になって下さい。
でも、どの練習から始めたらよいか？　どの程度練習したらよいか？など
お子さん一人一人によって、練習の仕方は異なります。
ご家庭で練習をする前に、
実際の『ことばの教室』の先生に相談してみて下さいね。



トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

構音障害とは、

＜構音障害とは？＞

そもそも構音とは？
音声学で言う　調音　とほぼ同義
一般には　発音　と呼ばれています。
構音器官を使って言語音を生成する生理的過程のことです。

言語音を生成する過程とは？
言語音をつくる過程には「発声」「共鳴」「構音」があります。
「構音」は、言語音をつくる過程の一つです。

「発声」とは、肺から送られてきた呼気が声帯の間を通過するときに、声帯を振動させて音声を生じさせること。
「共鳴」とは、喉頭から口腔、鼻腔までの共鳴腔の形を変化させて、音声にそれぞれの特徴を与えること。
「構音」とは、喉頭から口唇や鼻孔までの呼気の通路の形を変えたり、途中に狭めや閉鎖をつくったりすることにより、出された音声にさまざまな変化を与えて、それぞれの言語音にすること。

構音器官とは？
言語音産生の過程に関わる器官で、喉頭（声帯）から口唇、鼻腔まで含まれます。

以下に構音器官やそれが構音に果たす役割をまとめた図表を示します。工事中
喉頭・・・音声を作る器官
咽頭・・・上咽頭・中咽頭・下咽頭からなる。
口蓋・・・鼻腔と口腔を分ける隔壁。軟口蓋と硬口蓋がある。
舌
口唇
顎

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

構音障害とは、

＜構音障害とは？＞

構音障害とは、聞き手・話し手が属する言語社会における音韻体系の中で、
話し手が同年齢の人が正しく構音できる音を誤って構音しており、
聞き手に不自然な印象を与えてしまう状態。
あるいは、話し手自身が自分の構音を誤っていると感じる状態。

聞き手が、話し手が伝えようとする内容よりも、
そのためのコミュニケーションツール
として用いているものの方に注意が注がれてしまう状態が言語障害であり、
それが特に音声言語の音にあらわれているもの。

音が誤っている＝構音障害　ではありません。
構音の誤りは、正常な構音発達の過程でも多く見られるものです。

知的発達に遅れがあり言語発達にも遅れが見られ、
構音の発達にも遅れが見られる場合はどう考えたらいいの？
　　生活年齢（歴年齢）に比べて言語発達に遅れは見られるものの、
　　その発達段階で当然構音可能であると期待される構音が誤っていれば、
　　言語発達の遅れと構音障害が重複していると考えます。

＜構音発達とは？＞

全ての子どもが、日本語の中にある全ての語音を、
あるとき一度に、誤りなく構音できるようになるわけではありません。

構音の発達には順序性があると言われています。
構音の完成時期については、幾人かの研究者が研究の結果をまとめていますが、
一般的に視覚的に確認しやすく動きがダイナミックな、
両唇破裂音は早期に習得され、
s, ts, dz, rの習得は、５歳前後になってからと言われています。

構音の習得過程では、子音の省略や、
獲得が遅い音を構音点や構音方法が近い音へ置き換える誤りが見られます。
同じ音でも、語によって正しく構音したり誤ったり、
同じ語の中でも、ある時は正しく構音したり誤ったりと、
浮動的であることが特徴です。

以下の表は、構音発達、構音の初発時期、構音の完成時期をまとめたものです。工事中

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら・・・
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化・定着のための指導
- 搬化・定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

構音障害とは、

コミュニケーションの中の構音障害

音は、音声言語（話し言葉）の中に存在します。音声言語は、人と人とがコミュニケーションをしようとするときに用いられる最も代表的で簡便な道具（ツール）です。

人がある人とコミュニケーションをしようとするとき、そのために用いられた道具である音声言語を発することは、幾段階もあるコミュニケーションの過程の最も最後の段階です。と同時に、受け手（受信者、聞き手）にとっては、発せられた音声言語を受け（聴き取って理解し）それに応えてコミュニケーションを先へ先へと続けていく際のスタートにもなります。その受け手の中には、自分の発した音声言語を発しつつ聴き取り、吟味して必要に応じて修正をするためにまた会話の中で発信する伝え手（発信者、話し手）自身も含まれます。

従って、人がある人とコミュニケーションをしたいという意思を持ち始めたところから、実際に音声言語を発するに至るまでの過程のどこに障害があっても、音声言語は障害され、コミュニケーションの道具としての機能を上手く果たすことが出来ません。

音声言語の障害には、様々なものがありますが、それが音にあらわれたものが構音障害です。

図　コミュニケーション過程の中の音声言語　工事中

「ことばの教室」の中の構音障害

・「ことばの教室」が相談や指導の対象としている障害種の中で割合として最も多い

「ことばの教室」には、ことばやきこえの障害(不安・悩み・・・)を主訴に様々な困難を持った子ども達やそれを取り巻く人々が大勢相談に来たり指導を受けに来たりしています。それを障害種の別に分けた時、最も大きな割合を占めるものが構音障害です。

そして、この第一位の座と割合の高さは、発達障害が脚光を浴びいろいろと話題に上るようになった昨今も、変わることがありません。

構音障害を主訴に相談や指導のために「ことばの教室」を訪れる子ども達は、今も昔も常にいて、しかも割合の上で最も多いという不動の地位を保っているのです。

・専ら「ことばの教室」で相談や指導を受けるという例が多い

他の言語障害が「ことばの教室」以外の場でも相談や指導を受けてきたり並行して受けていたりすることが多いのに対し、構音障害は、専ら「ことばの教室」のみで指導を受けることが多いのも特徴的です。

それは、構音障害が話し言葉を発するようになってしばらく時を経てから気にされるようになることが多いということと関係があります。

学校に通うようになってから構音障害ではないかと思われるようになり、自校内や近隣の設置校の「ことばの教室」に通い始めた場合、この子は、専ら「ことばの教室」の教師による指導を受けることになります。

学校の中の構音障害

・改善に対するニーズが高い

構音障害は本人を含む聞き手に音の誤りとして聴取されます。話せば露呈します。話すということはコミュニケーションをしようという時最も多用される手段です。人は社会的な動物。人との関係の中で生活を送っています。従って人と人とが話し言葉を用いてやり取りしコミュニケーションをしようとする社会生活の中では、話すことから免れることが出来ず、構音障害は隠し通せません。

本人にも自覚があり、それを取り巻く周囲の人々（保護者、その他の家族、親戚、学級担任、友人など）も気付いていて、時には気にしており、何とかできるものなら何とかしたいという改善へのニーズが高い場合が多いです。

本人や周囲の人々が構音障害の他にはこれといった問題や困難を感じていない場合、そのニーズはますます高まります。

また、多くの場合、出来るだけ早く確実に治したいと望んでいます。

週授業時間が多くなったり、クラブや委員会活動、課外活動が始まったりして忙しくなる高学年になる前に、転校や卒業をするまでに、などと、具体的な期限を意識している場合も少なくありません。

・二次的な障害や問題に注意が必要

構音障害は隠せないだけでなく、目立ちもします。
暦年齢（生活年齢）やしていること、話している内容などとのバランスで、構音が子どもっぽく感じられると、
知的発達に遅れや偏りがあるのではないか、甘えているのではないか、ふざけているのではないかとの誤解をされ易いです。
周囲の人々が嘲笑したり、分からないと訴えたり、もう一度言うことやより分かり易く言うことを求めたりすることもあります。
仮に音の誤りに気付いていても、そのようにしか構音出来ないのが構音障害ですから、周囲の無理解で配慮の無い反応や対応によって、構音障害がある子は、恥ずかしい思いや悔しい思い、悲しい思いをしたり、孤独感や劣等感をもち自信をなくしたりします。
そのような思いをしたくないと、指名を避けて手を挙げず、発言の機会を意図的に減らそうしたり、音読や発表、発言に対して積極的になれず、そのような場面の多い国語などの授業を嫌うようになったり、時には不登校傾向に陥ることもあります。
本人の二次的な障害、本人を巡る二次的な問題への配慮が必要です。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら・・・
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化・定着のための指導
- 搬化・定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

構音障害が疑われたら・・・

＜構音障害と診断するために　１＞

※診断という用語を医師以外の者が用いることは好ましくありません。
ここでは、「この子に構音障害があると言っていいかな」、「この子のこの状態を構音障害と言っていいかな」と判断することを「診断」と言うことにします。
「指導の必要があるかどうかを判断することを『診断』と言う」とする考え方もあります。
しかし、明らかに構音障害があると考えられる場合に対しても、指導の必要があるかどうかを判断することは必要です。従って、指導の必要の有無を判断することに先立って、先ず、構音障害と言ってよいかどうかを判断することが必要であるため、構音障害の存在の有無を判断することを「診断」と言うことにします。

音の誤りが認められること＝構音障害ではありません。
また、構音障害がある＝指導が必要である、それを直ぐに開始する必要があるということでもありません。

＜音の誤りが認められても、必ずしも構音障害とは言えない・構音障害であると診断されても、必ずしも指導が必要であるとは言えない理由－幾つかの例＞

●構音も発達するという視点から
音の誤りは、構音の発達の過程でも現れます。したがって、構音発達に遅れを生じる原因となるような障害があると、音の獲得の完成期を過ぎる年齢となっても、音に誤りが認められることがあります。

●聴こえ難さの有無との関係から
日本語と言わず何語と言わず、ことばや音は全て、人が発したものを何度も何度も繰り返し聴き、また、自分でも発してそれを聴くことによって獲得されます。
ところが聴覚に障害があると、人が発したことばや音も、自分が発したことばや音も歪みなくクリアに聴き取ることが困難です。モデルとなる音の聴取や自分の発した音のフィードバックが難しいと、正しい音を身に着け発することが出来ません。

●情緒の安定の状態や障害との関係から
ことばはコミュニケーションの道具ですが、伝え手が伝えようと意図することは、必ずしもことばで語られたことだけではありません。
ことばにも、「ことばを発する」いうことにも、ことばで表された具体的内容以外の様々なメッセージを込めることが出来るのです。
（子どもが、母親の関心を惹き付けようとしたり、自分の身近にい続けて欲しいと願ったりして、「～ってどうして？」と繰り返すなどというはそのよい例です。）
例えば、あるとき、それまで正しく言えていたはずの音を急に誤って発するようになる場合があります。
ある子の下に、つい最近、弟が誕生しました。すると、大好きな母親だけでなく家族や親戚達がその新しい家族にばかり関心を寄せるようになりました。実際、弟は育児に手がかかります。それまで一人っ子でいて両親の愛情を一身に独占してきたその子にとっては危機的な状況です。が、どうすることも出来ません。
このような時、その状況を何とかしよう、つまり自分にも関心を惹き付けようと、上の子は様々な手を打とうとします。それが無意識のうちになされることもあります。夜尿などの赤ちゃん返り（退行）です。それが話し言葉にも現れることがあります。すると、この間までちゃんと言えていたはずのことばが言えず「ワンワン」のような幼児語となったり、「オチャカナ」のような音の誤りを生じたりするのです。

●属する集団との関係から
ことばや音は、同じ音韻体系を持つ者の集団内のまさに「共通言語」ですから、例えば同じ時代の同じ地域社会の同じ世代などといった、音韻体系を共通とする者の集団の中で通じる音が、その集団にとっての正しい音ということになります。
ある人がその人と同じ言語を話す者の集団とは異なる集団に入った時、その人が発する音は、時によって道具の域を超えて注意を奪われる対象になります。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら・・・
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化・定着のための指導
- 搬化・定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

構音障害の診断

＜構音障害と診断するために　２＞

音に誤りが認められた場合、それを構音障害とみなすためには、
いろいろなことを考慮しなければなりません。

そのためには、情報の収集が必要です。
そして、そのためには、様々な調査や検査をすることが求められます。

以下に、構音障害と診断するために得るべき情報を記します。

★ 年齢

★ 聴覚音声言語面以外に「主たる障害」とでも言うべき障害がないか

★ 知的発達に遅れや偏りがないか→発達検査や知能検査

★ 社会性の発達、情緒面の発達や安定、母子関係、家庭環境はどうか
→SM社会生活能力検査、診断的新親子関係検査など、目的に適う検査があります。

★ 生育歴
これまでと現在の言語環境はどうか　主たる養育者やその方の言語はどのようか

★ 聞こえや発声発語器官の様子
・聴覚障害はないか　聴こえ難かった時期はないか→聴力検査
・耳鼻咽喉科疾患やその既往の有無はないか
・発声発語器官の形態や機能に異常はないか→調べ方があります。
・鼻咽腔閉鎖機能に異常はないか→調べ方があります。
・手術歴や補綴的処置はないか

★ 身体発育や運動能力、器用さに異常はないか

そして、

★ 誤りがあると思われる音そのものについて検査します。→構音検査

検査は結果だけでなく、それを実施する中で子どもが示す反応が、有益な情報となることが多いのは事実です。
が、得ようとする情報の全てを指導者自らが検査したり調査したりして集める必要はありません。
既に他の人が調べたことや実施した検査があれば、それを有効に利用し、短い期間の中で同一の検査をすることやそのための負担と時間の浪費を避けます。

検査そのものが指導的効果を発揮することもあります。
直ぐに確かめなければならないこともあります。
しかし、大切なのは、対象児やその家族と信頼関係を築きつつ、または築いてから行うこと。
情報収集は誤りのない効率のよい指導にとって欠くことが出来ないものですが、そのことのために対象児やその家族との信頼関係を損ねてしまっては、その後の関係や指導によくない影響をもたらしかねません。

もう一つ大切なこと、それは、これまで気付かれてこなかった器質的障害や聴覚障害の存在を見落とさないこと！！　です。

これらの他にも、指導を進めていく上で役に立つ情報は、
★好きなもの・こと　得意なもの・こと
★嫌いなもの・こと　苦手なもの・こと　など。
楽しい会話の中で行われるインタビューによって、手に入れておきたい情報です。

そして、実際に指導を始めるにあたっては、
★構音障害の存在や音の誤りに対する自覚の有無とその程度
★「何とかなるものなら何とかしたい」という気持ちの有無とその程度
★聴覚的弁別力
★仮名文字の理解の有無やその程度
★言語学習能力　学力　優位な認知処理パターン
などに関しての情報が必要であり有効です。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－

構音障害の種類

構音障害は、その原因によって次の3つの種類に分類されます。
運動障害性構音障害
器質性構音障害
機能性構音障害

各種の構音障害についての解説：工事中

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－

誤り音の種類

誤り音の種類
　誤って構音された音の聞こえ方（構音された音がどのような誤りとして聞こえたか）によって幾つかの種類に分けられます。
大きく分けて次の3つに分けられます。
　省略
　置換
　歪み（ひずみ･ゆがみ）

　解説：工事中

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら・・・
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化・定着のための指導
- 搬化・定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

異常構音とは、

異常構音とは、

同じことばの同じ位置にあったり、同じように書き表されたりする音であっても、その音をどこでどのように作るかには個人差があります。それどころか、同じ1人の人が発した同じことばの中に用いられた同じ音であっても、物理的には同じようにつくることや同じ音として発せられることはありません。

でも、ことばやその一部である音は、同じ言語体系、音韻体系をもつ集団の中では、だいたいにたかよったかの場所でだいたい同じようにつくられ、同じ音として聞こえるような一定の特徴を持っています。だから本来必然性の無いことばや音が、共通のもの・ことを表すものとしてコミュニケーションの道具に用いられるのです。

ところが、「数の上で多くの人はそのような場所でそのようにはつくらないよ」という場所や方法で音をつくる人がいます。同じ音韻体系を持つ集団の中で圧倒的に多くの人がつくる場所や方法とは異なった場所や方法でつくられた音は、多くの人が発する音と同じ音とは思われない何か違和感を感じさせられる音として聞こえます。こういった音のことを異常構音と言います。

しかし、その異常構音のつくられ方には、場所や方法に共通のものがあり、つくられるときの場所や方法によって名前がつけられています。

以下に、代表的な異常構音をその作られ方や聴覚的特徴、なり易い音、他の誤り音との鑑別の仕方などの観点からまとめた表をお示しします。工事中

異常構音は、ある音には近いがそれとは異なる別の音として聞こえます。
日本語の平仮名や片仮名では書き表すことが出来ない音です。
なんとなく籠もったような、また擦れたような、歯切れの悪い、雑音が含まれたような、耳障りな音と感じます。
音の誤り方としては歪み音として聴き取れる音です。

省略や置換との違い

・例えば「かえる」の「か」の音が「か」とは聴き取れず、「あ」のように感じられる場合があります。

kが省略された結果、母音化して「あ」となっている場合、この「あ」の音は、その人が発する「あひる」や「あした」の「あ」と同じ音として聴き取れます。

しかし、異常構音であれば、「あひる」や「あした」の「あ」と同じ音のようには聴き取れず、「あ」とは異なる別の音として聴き取れ、「あ」と書き表すことは出来ません。

・例えば「たいこ」の「た」の音が「た」とは聴き取れず、「か」のように感じられる場合があります。

これが「た」が「か」に置換している場合には、この「か」の音は、その人が発する「からす」や「カメラ」の「か」と同じ音として聴き取れます。

しかし、異常構音であれば、「からす」や「カメラ」の「か」と同じ音のようには聴き取れず、「か」とは異なる別の音として聴き取れ、「か」と書き表すことは出来ません。

・省略や置換は、音の誤りではありますが、そのつくられ方そのものには誤りが無く、発せられた音は日本語の語音の中にあり、平仮名や片仮名で書き表すことが出来る音です。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－

構音指導の内容

構音指導の内容

構音指導・構音訓練＝音作り　ではありません。

※教育の場では、「訓練」という用語を用いることを嫌い、「指導」という用語を用いようとする立場があります。指導の具体的な内容には、課題訓練的なものが含まれつつも、その全体を「訓練」とは呼ばず、あえて「指導」と呼ぼうとする立場には、医療の場で用いられることが多い「訓練」と区別して呼び分けようという考え方があるからです。教育の場では、子ども自らが課題を把握し、その課題解決に向けて様々な学習活動を展開し、課題解決を図っていく過程で様々なもの・ことを学びとっていくことを目指しますが、教師がイニシアティブをとって意図的かつ計画的に、学習の場を設け、教師がとらえた子どもの実態から導き出した教育課題の解決に向けて、子どもたちを教師の意図する方向へと導いていくときには「指導」、子どもたちの主体的な学びを大切にしそれを助けるときには「支援」というように「指導」や「支援」という用語を使い分けており、「構音指導」というときにも、前者の意味で「指導」という言葉が用いられています。

先ず、指導を成立させる条件として･･･

通級による個別の指導に堪え得る協力的な態度が必要です。
これを求めることが出来るためには、教師と子どもとの間に信頼関係が成立していなければなりません。
教師がとらえた教育課題である、指導の必要があると思われた音の誤りについて、教師が、「出来れば、出来るだけ治していくことがいいと思っていること」や「そのためのお手伝いをしたい、お役に立ちたいと思っていること」「ここはそのための教室であり、教師も時間も教室もそのために使うことが出来ること」などについて、率直な思いを伝えます。
子どもに、音の誤りがあることを伝え、「もし何とか出来るものなら何とかしたい」という、子どもの自己治療意識（ニーズ）を確認します。
子どもとのインフォームドコンセントで、指導を開始すること、開始の日時を決定し、通級のシステムを説明し、指導中の約束事などについて話し合います。
また、プランがあれば、指導開始音や指導の進め方、指導方法、改善の見通しなどについて説明します。

よい耳作りのための耳の訓練で語音弁別力を培う

自分が誤って構音している音の、本来構音されるべき正しい音と、誤って構音している結果誤った音になってしまっている自分の構音との違いを聞き分けられることが出来なければ、その子にとって構音指導の意味は理解し難いものとなってしまうでしょう。
まず、この語音弁別力が必要です。
構音指導の過程では、その時々に、構音することを求められモデルとして示される（聞かせ与えられる）教師の音やそれを表記した文字などと、自分が発した音との違いを聞き分ける力が求められます。

耳の訓練の前提として、傾聴態度や注意の集中とその持続の力を培う

教師の構音や構音時の発語器官の動き、自分の構音や構音時の発語器官の動きに、意識を集中し、心を傾け、耳を澄ませ、目を凝らして注意深く見聞きすることが出来る力が必要です。
そのためには、一所に身を落ち着かせて一時集中することが出来る力が必要です。

語音弁別が出来ない＝構音指導が出来ない　ということはない

例えば聴覚障害があるなどのために、語音弁別が確かに出来ない子どももいます。
モデルとなる音が聞こえず、自分が発した音のフィードバックが出来なくても、音を作ることは可能であり、そのための指導をすることも出来ます。この場合は、聴こえを補うために、聴覚以外の感覚を使うことになります。例えば、視覚、筋運動感覚などです。

発語器官の運動機能を高める

音作りに先立って、または、並行して、発語器官の感覚や運動の機能を高めるための指導をします。

その運動そのものが構音時の動きの全部または一部であるというわけではなく、それが出来るようになったからと言って構音が出来るようになるというわけではありませんが、構音の基になる動きの検査として、構音検査の一部に構音類似運動検査があります。この検査内容を参考にしたり、顔面筋の運動も交えたりしながら、発語器官の運動を繰り返し行います。

CSSBなどは、日常生活の中で練習出来るものです。

音作り

いわゆる狭義の構音指導です。

幾つかの代表的な方法があります。

自己修正力を高める

別章をご参照ください。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

どうやって練習するの？　実践編の内容

〇はじめに

〇耳の訓練

〇構音指導の進め方
　獲得された音から、より難しい条件下での構音へと指導を深める方向
　獲得された音から、他の音へと指導を広げる方向
　イメージ図

〇音別の*誤音の例*と、*具体的指導の方法*（誤音矯正・音作りの実際）

- カ行音
- サ行音
- タ行音
- ラ行音

- カ行音
- サ行音
- タ行音
- ラ行音
- 異常構音

〇はん化・定着のための指導

〇自己修正力を育てるための指導

〇指導終了の目安

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

はじめに

＜指導を始める前に＞

構音指導に入るための以下の条件が整っていますか？

☐ 発声発語器官の医学的治療や補綴的処置が済んでいる。

☐ 聴力その他の聴覚障害が認められず、本来産生するべき音と、
誤った構音の結果、産生されている音との聴覚的弁別ができている。

まだ　の場合　　耳の訓練　へ

☐ 自己治療意識があり、協力的な態度で通級や指導に臨むことが期待できる。

☐ 指導に継続的に通うための本人や保護者、所属学級の諸条件が整っている。

＜このWEBサイトの使い方について＞

・それぞれのページにある**青色の文字表記**や をクリックすると、

説明に関連する動画が流れます。

・それぞれのページにある、**緑色の文字表記**　をクリックすると、
関連するページに飛ぶことが出来ます。
・使い方や内容に関する質問は、電子メールでお願いします。

アドレスは、くぼやま@nise.go.jp
→　「くぼやま」を小文字のローマ字８文字、@を小文字にして下さい。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

＜構音指導の進め方＞

構音指導は系統的に進めます。ここでは「ス」の構音指導を例に概説します。

指導を進める**方向**として、以下の２つがあります。

一つの音節を、より多くの音節の連なりの中において、
前後音や語内の位置を問わず、
また、意味の有る言葉の中で、より長く速く構音しても
誤らないように確かにしていく方向

指導の方向（Ａ）＝指導を深めていく

構音できるようになった音節を生かして、
獲得できていない他の音節や音素を導く方向

指導の方向（Ｂ）＝指導を拡げていく

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

構音指導の方向－１－

＜指導の方向（Ａ）＝指導を深めていく方向＞

①　ターゲットの音素が産生できるようになったら　後続母音をつけて単音節を作り、

その繰り返しで、　**ススス・・・**

②　①の後に単音節をつけ、意味のない２音節を作って
②’ 更にその繰り返しで
つける音節を変えることによって幾通りもの組み合わせが可能です。
初めは後続母音が等しい母音と

続いて他の母音と　　**スア　スア　スア**

更に他の音（子音）と　　**スロ　スロ　スロ**

つける音節の変化の中で　　**スア　スイ　スウ**

その２（もっとなめらかに！）

最後に誤って産生していた音と　　**スシュ　スシュ　スシュ**

注意：獲得されていない（構音出来ない）音節との組み合わせについて
・ターゲットの音節と、同じ子音やそれらの有声子音を持つ音節（例　指導中の「ス」に対する「サ」や「ズ」「ツ」など）との組み合わせについては、確実に構音出来るようになったものを選択し、誤りを誘発しないようにします。
・ターゲットの音節と、同じ子音やそれらの有声子音を持たない音と組み合わせての練習の中では、ターゲットの音節でない音節の正確さについては問題としません。
専らターゲットの音節の正確さに注目するようにします。
（例　「ス」の指導中、「ポスト」を「ポスコ」と言い誤っても、言い誤った「ト」については問題とせず、「ス」の正確さに注目します。）

③　①の前に単音節をつけ、意味のない２音節を作って②と同様に
③’ 更にその繰り返しの中で
④　①の前後に単音節をつけ、意味のない３音節を作って
④’ 更にその繰り返しの中で

ここでは、前後の音節が同じ音節になる場合（例　「タスタ」「カスカ」など）と

前後の音節が異なる音節になる場合（例　「タスカ」など）の組み合わせが生じます。
それぞれのパターンについて様々な組み合わせを作り練習します。
注意：幾つかの音節の連なりによって出来る意味を持たない「音節の組み合わせ」の中での練習では、
１音節ずつ切らずに一まとまりの「音節の組み合わせ」として、滑らかに構音するようにします。
（例　「タ」・「ス」・「カ」ではなく、「タスカ」というように）
そして、どのような音節との組み合わせやどのような位置であっても、
それ一つの音節で構音したときと同じ正確さで構音出来ているかどうかを確認します。

⑤　①の音節を含む、意味の有る言葉の中で最も小さな単位＝単語　の中で

・初めは最初につく２音節単語で（例　「スミ」「スナ」など）
・次に最後につく２音節単語で（例　「イス」「リス」など）
・それから最初につく３音節単語で（例　「スイカ」など）
・次に最後につく３音節単語で（例　「アイス」など）
・そして真ん中につく３音節単語で（例　「マスト」など）
・更に音節数の多い単語の様々な位置で練習します。（例　「クリスマス」など）

⑥　①を含む句や文の中で
・文は、２文節文、３文節文、４文節文というように、次第にその長さを増していきます。

⑦　会話の中で
・初めはテーマのある会話の中で
・次第に自由な会話の中で
・最後に日常生活場面で

※　次のステップに指導を進めていくための条件は
誤って産生されていた音節との出し分けと、
誤って産生されていた音節と正しい音節との正誤弁別が確実にでき、
誤って構音してしまったとき自己修正が無理なくできること

※　それぞれのステップの各課題の中で　子どもにとってより易→難へと段階的指導を
視覚的な助け　有り→無しへ（自発や暗唱より音読の方が容易）
聴覚的なモデル　有り→無しへ（呼称「これなあに？」より復唱「真似してね」の方が容易）
意識化の工夫　有り→無しへ
例）単語の復唱→音読→呼称
マーカーの記された文の音読→マーカーが無い文の音読→復唱→暗唱
スピード　ゆっくり→速く
繰り返しの数　少→多へ
音節・文節・文の数　少→多へ

※　もし、ターゲットの音に誤りや不確かさが出てきたら・・・
１段階前に戻って十分な練習を積み、安定して正しく産生出来ていることを確認してから、先に進めようにします。
「進まない勇気」「戻る勇気」を！

※　訓練場面や意識的に注意して構音したときには正しい音節が出せるのに、会話場面にはなかなか般化せず、正しい構音が定着しないのは・・・

同じ１人の人が構音した同じ音節。
しかし、耳では同じ音節として捉えられる音節も、実際には全く同じ構音点で同じように作られるということはあり得ません。
同じ音節と捉えられ同じ文字で書き表される音節も、実際には前後音の影響を受けて、構音点が微妙にずれます。
そのことにより意味の有る自然で滑らかな音の連なりとして聞き取ることが出来るのです。
そのため、②から④のような意味の無い音節の連なりの中で様々に位置を変えながらしっかり練習し習熟することが必要となります。
単音で構音出来るようになると、嬉しくなって、つい、意味の有る言葉の中での練習に手を着け始めてしまいがちです。
意味の有る言葉の中では、言う子どもの方も、また聴く教師の方も、意味を受け取ってしまい、伝達の道具として用いられた音声言語のパーツである音節の正確さに対するアンテナが低くなりがちです。
「急がば回れ」確実な定着を図るためにも、②から④の練習をしっかりと行いましょう。

※　新しく指導を開始する音節は一つです。指導開始時に同時に複数の音節を対象とすることはしません。
新しい音節の指導の導入は、指導中の音節の、単語レベルでの安定が見られるようになってからにします。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

構音指導の方向－２－

＜指導の方向（Ｂ）＝指導を拡げていく方向＞

構音出来るようになった音を生かして、同じ子音部を持つ後続母音が異なる他の音節へと指導を進めていきます。

例　カ行音は、カ→コ→ク→ケ→キ
　　サ行音は、ス→サ→ソ→セ
　　タ行音は、タ→テ→ト

子音を作るのに容易な後続母音の音節より指導を開始し、漸次接近法で後続母音を変えていきます。

ただし各行とも、イを後続母音に持つ音節は、構音点が口蓋に寄っていて、同じ行の中の他の音節とは大きく異なっている点に注意が必要であり、同じ子音部をもつ音節の中では一番最後に指導します。
特に、サ行音のシ、ナ行音のニ、ハ行音のヒやフは、別の音とも呼べるほど、構音点が大きく異なっています。
また、タ行音のチやツは、摩擦成分が加わり、構音方法が異なっています。
これらについては、後続母音を変えることによって作っていくというより、新たな子音部（音）を作っていくと考え、改めて別に指導を開始します。

後続母音を変えて音節を作っていく指導方法の他に、産生出来るようになった音を生かして他の音を導く指導の例を紹介します。

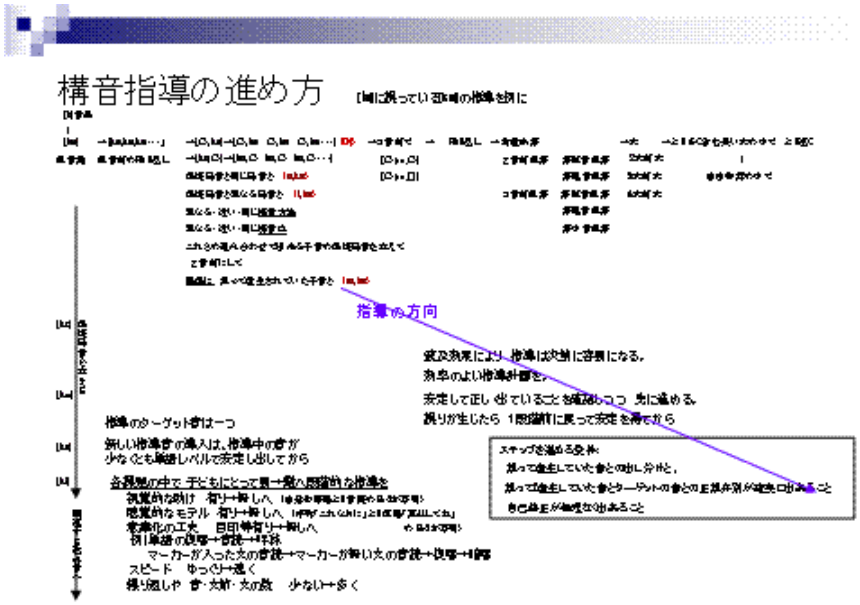
- 無声音から有声音を導く。
  後続母音の口形を保ち、常に後続母音を出し続けるような意識を持たせながら無声音を連続させ、
  漸次接近法で次第に有声音に近づけていきます。
- 有声音から無声音を導く。
  次第に声量を絞って小さなささやくような声での産生を促し、子音部が得られたら後続母音をつけます。
- 構音方法が等しく構音点が近い音から導く。
  シはスィから次第に構音点を後ろに下げていきます。
  ヒはフィから次第に構音点を後ろに下げていきます。
- 破裂音に摩擦成分を加えて破擦音を作る。
  初めに摩擦音ｓやʃを作って、同じ構音点で呼気を閉鎖、破裂させ、ʦやʧを作ります。
- 破擦音の破裂成分を消去し、摩擦音を作る。
  ʦやʧを引き伸ばし、同じ構えのまま摩擦部分だけを再生するよう促します。

構音指導には波及効果があり、ある音が産生出来るようになると、そのことが他の音節や音の獲得を容易にするので、獲得のための指導に要する時間は、次第に短くなっていきます。

- トップページ
  - トップページ
  - 構音とは、構音器官とは？
  - 構音障害とは？構音発達とは？
  - 構音障害のいろいろな側面
  - 構音障害が疑われたら･･･
  - 構音障害の診断
  - 構音障害の種類
  - 誤り音の種類
  - 異常構音とは、
  - 構音指導の内容
  - 『実践編』トップページ
  - はじめに
  - 構音指導の進め方
  - 指導を深めていく
  - 指導を拡げていく
  - 指導のイメージ図
  - 耳の訓練とは、
  - 耳の訓練の実際
  - カ行音とは、
  - カ行音の誤り－１－
  - カ行音の誤り－２－
  - 指導方法－１－
  - 指導方法－２－
  - 指導方法－３－
  - 指導方法－４－
  - サ行音とは、
  - サ行音の誤り－１－
  - サ行音の誤り－２－
  - 指導方法－１－
  - 指導方法－２－
  - 指導方法－３－
  - 指導方法－４－
  - タ行音とは、
  - タ行音の誤り－１－
  - タ行音の誤り－２－
  - 指導方法－１－
  - 指導方法－２－
  - 指導方法－３－
  - 指導方法－４－
  - ラ行音とは、
  - ラ行音の誤り－１－
  - ラ行音の誤り－２－
  - 指導方法－１－

構音指導の進め方　図

下の画像をクリックすると、拡大されます。
ＰＤＦファイルです。



トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

耳の訓練とは、

ここではいわゆる「耳の訓練」について解説します。

子どもがある音そのものをつくることができず他の音に置き換えて構音していたり、
置き換えてはいないが、ある音の構音の方法や構音点が本来の構音方法や構音点と
異なっているために、産生された音に歪みが生じていたりして、
誤った音として構音されているものを正しい方法による明瞭な構音に改善していくためには、
本来構音するべき音と誤って構音された音との違いを聴き分けることができることが必要です。

（指導者が発するモデルとなる音を、子どもに聴かせ与えて模倣させながら、
子どもが構音している誤音から段階的に少しずつ変化させて正しい音に近づけていく指導法では、
その時々のモデルの音と誤音との違いを聴き分けることができることが必要です。）

＜耳の訓練を開始するに当たって＞

この聴き分けの力の前提となる能力（レディネス）として考えられるものは、

・注意を集中し、それを持続することが出来る能力
・指導者に注目し傾聴することが出来る能力
・指導者の指示を理解し従おうとすることが出来る能力

などです。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

＜耳の訓練　指導の実際＞

①誤音や構音点が近い音、構音方法が等しい音などを含む様々な音の中から、
　ターゲットの音を聴き取る練習

ターゲットの音があったかな

いくつ聴こえたかな

何番目に聴こえたかな

②ターゲットの音（正しい音）に対して聴かせ与えられた音が同じ（正しい音）であったか、

　そうでなかった（誤った音）かを**聴き分ける練習　（正誤弁別）**

　単音に続き、ターゲットの音の語内位置を「最初」、「最後」、「中」に変えて、
　ターゲットの音を語頭にもつ単語（語頭音単語）、ターゲットの音を語尾にもつ単語（語尾音単語）、

　ターゲットの音を**語中にもつ単語（語中音単語）で行います。**

③ターゲットの音や誤音を含む２音の組合せが、同じ音同士の組合せであったか、

　違う音の組合せであったかを**聴き比べる練習　（異同弁別）**

　単音に続き、ターゲットの音の語内位置を「最初」、「最後」、「中」に変えて、
　ターゲットの音を語頭にもつ単語（語頭音単語）、ターゲットの音を語尾にもつ単語（語尾音単語）、
　ターゲットの音を語中にもつ単語（語中音単語）で行います。

④文字を使って
　ターゲットの音の文字に対して聴かせ与えられた音が同じ（正しい音）であったか、

　そうでなかった（誤った音）かを**聴き分ける練習　（正誤弁別）**

　ターゲットの音や誤音、ターゲットの音に構音点や構音方法が近い音など様々な音を聴いて、
　それに対応する文字を指したり拾ったり、書き取ったりする練習。

　※指導者の腕の見せ所　創意工夫溢れる楽しい指導例
　　・教師がターゲットの音を正しく言えたとき、教師にごほうびを手渡す。

　　・教師がターゲットの音を正しく言えたとき、チップを置く、パーツを描く、色を塗るなどして、
　　並べたものがゴールに達したり、絵などが完成したりすることを目指す。

あなたは0156人目です。
ありがとうございます。

オンラインユーザー　1人
ログインユーザー　0人

指導の実際（映像）募集中！！
このＷＥＢサイトをご覧になっている皆さんの指導例を教えて下さい。
ここで、ご紹介していきたいと思います。　**こちらまでお知らせ下さい！**

＜構音指導を進める中で求められる聴き分けの力とは＞

ターゲットの音と誤音との弁別は、段階的に進む構音指導の中で常に求められる能力です。

構音指導に入る前は、教師の産生した語音の弁別ができれば「よし」とします。

構音指導の各段階では、子ども自身が自分の産生した音と教師が産生したモデルの音（指導の各段階でのターゲットの音）との正誤弁別が出来ることが次の段階へと指導を進めるための条件の一つとなります。

Powered by NetCommonsThe NetCommons Project

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

ここではカ行音の構音指導について概説します。

カ行音は、 無声軟口蓋破裂音です。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

カ行音に見られる誤り－１－

＜カ行音にみられる誤りの例＞

★構音の方法そのものには誤りのないもの

子音kの省略による母音化

タ行音への置き換え

ハ行音への置き換え

ファ行音への置き換え

★構音の方法そのものに誤りがあるもの

側音化構音（「キ」や「ケ」に多い）

声門破裂音

鼻咽腔構音

❗このうち、子音の省略、置換は、産生された誤り音は日本語の語音の中に存在する音であり、構音の方法そのものに誤りはありません。
側音化構音、声門破裂音、鼻咽腔構音は構音の方法そのものに誤りの有る異常構音です。通常日本語の語音の中には見られない音であるため、
平仮名や片仮名では書き表すことが出来ず、聞き取り難い耳障りな音に聞こえます。➪異常構音

これらの音の誤りの外に呼気の鼻漏れによる鼻音化が認められ子音が歯切れ悪く頼りなく聞こえたら、鼻咽腔閉鎖機能不全や、その原因疾患の存在や既往を疑います。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

カ行音に見られる誤り－２－

＜タ行音への置き換えについて＞

奥舌と軟口蓋で破裂すべきカ行の構音点が前進し、
前舌と歯茎とで破裂させるとタ行音への置き換えが起こります。

「ク」は「トゥ」に、「キ」は「ティ」に置き換わりますが、
５０音表の表記に見られるように、
タ行音には「ツ」や「チ」の音が含まれるという意識から、
「ク」は「ツ」に、「キ」は「チ」に置き換えられることも多く見られます。

＜声門破裂音と子音の省略との鑑別＞

- 声門破裂音では「アッア　アッア　アッア　アッア」となり、
  母音の「ア」 との間に間があき母音の「ア」とは異なる音に聞こえます。

- 声門破裂音は、母音しか聴き取れず子音の省略と聞き間違われることがあります。

- 産生された音が声門破裂音か子音の省略によるものかを判断するためには、
  ビデオのような方法があります。
  「ア」 と「カ」を交互に言うよう求めると、子音の省略では「アアアア」と聞こえます。
  母音の「ア」と　子音が省略され母音化した「ア」とは同じ音に聞こえます。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

カ行音の指導方法－１－

＜はじめに＞

構音の仕方の誤りや産生されている誤音を正しい方法による明瞭な構音に改善していくために、
正しい構音の仕方を指導するための方法を紹介します。
まず、本来産生するべき正しい音と自分が産生している誤った音との違いが理解でき、
正しい音や誤り音を、自分や指導者の発話の中から聞き取ったり、
正しい音に対する聞かせ与えられた音の正誤や、組み合わされた２つの音の異同を聞き分けたり
することができるようになるための指導（耳の訓練）をします。

耳の訓練

＜舌押さえ法＞

カ行音を言おうと意図した途端に挙がってしまう舌を舌圧子などを用いて押さえ、
次第に抑える力を弱めながら抜き去っていく方法です。
嘔吐を誘発したり、押さえようとする力に対して強い抵抗を感じたりしたら
無理せず違う方法に切り替えます。
軽く舌を押さえることでカ行の音が産生できれば、
それを安定的に出すことが出来るよう繰り返し、次第に押さえる力を弱めていきます。

コツ：舌を押さえるとき、ただ上から押し付けるだけでなく、
いくらかロの奥の方へ押し込むようにすると奥舌が上がりやすくなります。

この方法では正しいカ行音を誘導することができなくても、
挙がってしまう舌さえ押さえればカ行音を産生することができることが多いため、
誤り音の自覚やその原因を理解させるにはよい方法です。

＜キーワード法＞

通常は前後の音や語内位置にかかわらず発話の中で一貫して誤りが見られていても、
ある特定の言葉を発するときにだけ、時として正しい音で発話することができる
ということがあったとき、その言葉を指導に用いる方法です。
まず、安定的に正しい構音で産生された音を用いて発話できるよう繰り返し発話させます。
少しずつ前に続く音を消去していきます。
取り出してそれ一つの音で産生できるよう指導します。
正しく産生できた音を仮名文字等とマッチングさせるなどして意識化させ、
出そうとして出すことができるよう指導します。
そしてその安定を図ります。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

カ行音の指導方法－２－

＜後続母音を変えていく方法＞

同じカ行音の中ですでに産生出来ている外の後続母音のカ行音を用いる方法です。
指導の中で、産生できた音を同じ子音部をもつ、
同じ行の中の後続母音の異なる外の音に広げていく場合などに用います。

ビデオでは、「ク」から「ケ」を導こうとしています。

誘導できた音を仮名文字等とマッチングさせるなどして意識化させ、
出そうとして出すことができるよう指導します。
そして、安定を図ります。

＜側音化構音の指導方法＞

「キ」や「ケ」などに多く見られる側音化構音は、側音化構音の指導プログラムに
基づいて指導します。

側音化構音の構音指導

母音の「イ」や「エ」に問題がなければ、側音化した「キ」や「ケ」の構音指導でも
後続母音を変えていく方法を用いることができます。

ビデオでは、「ク」から「キ」を導こうとしています。

❗ここで注意することは、「イ」を構音する際、左右の口角を引かず「ウ」の口形を
残すことです。
単音で練習するようになっても、「ウ」の構えを残すようにすると側音化を予防
することができます。

ビデオでは「ク」を用いていましたが、「ケ」が正しい方法で構音できれば、
「ク」の代わりに「ケ」を用いることも可能です。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

カ行音の指導方法－３－

＜構音点の位置付け法（構音点法）＞

☆カ行音の構音点である奥舌と軟口蓋とで呼気の閉鎖、開放
つまり破裂をすることが出来るようにするための指導方法です。

異常構音など、正しい構音点を用いての構音ができない場合に多く用いられます。
指導では呼気の代わりに水を用い ます。
口の中に水を含んだまま上を向き口を開けます。
このままの状態を保っても水が喉の奥へと落ちていかないのは、
どこかでその通路が閉じられているためです。
この状態で呼気を吐き出します。すると閉じられていた通路が開けられ
水を泡立てながら呼気が出てきてガラガラうがいとなります。

呼気を止めればうがいがとまり、再開すればまたうがいが始まります。
再開時が開放が起きるときです。
このとき、同時に発声を求めると「カ」に近い音の産生が得られます。
鼻詰りがなければこの状態でも鼻への通路は開いていて鼻呼吸することが出来ます。

次第に口の中に含む水の量を減らしていきます。
やがて１滴の水で、最後には水が入っているつもりでうがいをさせます。

☆子どもによっては、口腔内に水を溜める練習をした後、
水のない状態で上を向かせて水があるつもりになることを求め、
聴覚刺激法で「カ」を誘導すると、「カ」の音が得られることがあります。
（水溜法）

ストローなどで１滴から数滴の水を喉の奥に落とし、

それを前に飛ばすことを求めるというのも同様の方法です。

顔を正面に向けて水を用いなくても出すことが出来るよう指導します。

☆カ行音は首の角度によらず出せること、

また、

搬化のためには産生時に下顎が動かないことが大切です。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

カ行音の指導方法－４－

＜搬化・定着のための指導＞

それ一つの音で出せるようになったらその安定を図ります。
前後にいろいろな単音を付けて組み合わせ、意味のない音のつながりの中で練習します。
３音以上のつながりでは　真ん中の音としての練習が可能です。
つける音によって難易度が変わります。
母音、子音、その中でも同じ後続母音をもつ子音、構音点や構音方法が同じ子音などの
様々な組み合わせや、語内位置、発話速度など
いろいろな条件下で十分に練習を積み習熟させます。

また、これまで誤って置き換えていた音と組み合わせての練習も必要です。
意味のない音のつながりの中で安定が得られたら、ターゲットの音が初めにつく単語、
最後につく単語、真ん中につく単語の中で練習し、次第に発話の量を増やしていきます。
ターゲットの音や誤って置き換えていた音を多く含む文章を音読したり暗唱したりする、
早口で繰り返すなど、負荷を掛けても誤りが見られなくなることを目指します。

指導の実際→搬化・定着のための指導

＜自己修正力を育てるための指導＞

構音指導の中では自己修正力を育てることも大切です。
発話の中で自分や指導者の構音の正しさを吟味して誤りや曖昧さに気づき、
必要があれば誤りを修正することができるための力を育てます。
誤りの自覚については、始めは指導者の誤りに気付くことができる段階から、
やがて自分の誤りに気付くことができるようにと指導を進めます。

また、直接「違うよ」などと音の誤りや誤った音を指摘されたり、
何らかのサインを送られたりして気付く段階から、言った途端に自ら気付く段階へと指導します。
自己修正については、モデルの音を聴いたり、構音の方法を観たりしてできる段階から、
工夫や努力なしに１回で出来る段階へと指導します。

指導の実際→ **自己修正力を育てるための指導** **その２**

＜指導終了の目安＞

本人や保護者の希望、転校や進学などによって早期に終了することが求められた場合、
どのような状況下でもまったく誤りなく構音出来るまでに搬化、定着をみなくても、
必要が生じたときに意識して言おうとすれば、
１回から数回の試みで正しい音に達することができる力があるかどうかが
終了可否の目安となります。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

サ行音とは、

ここではサ行音の構音指導について概説します。

サ行音は、 　歯・歯茎・舌先を構音点とする、無声の摩擦音です。

＜注意！！＞

日本語の５０音表では　サ行の音は、「サ、シ、ス、セ、ソ」となっていますが、
このうち「シ」は、他のサ行音「サ、ス、セ、ソ」に比べ構音点がやや後ろに移行した
歯茎硬口蓋と前舌を構音点とする摩擦音で、
「シャ行音『シャ、シ、シュ、シェ、ショ』のイ列の音」とでも言うべき音です。

s行音のイ列音は、「スィ」という感じの音となります。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

サ行音に見られる誤り－１－

＜サ行音に見られる誤りの例＞

- **子音sの省略による母音化**
- **タ行音への置き換え**

タ行音への置換では、「サ・ス・セ・ソ」が

「タ・トゥ・テ・ト」 となる場合と

「タ・ツ・テ・ト」 となる場合があります。

- **チャ行音への置き換え**
- **シャ行音への置き換え**
- **ファ行音への置き換え**
- **口蓋化構音**
- **側音化構音**　などです。

このうち、子音の省略や置換は、
産生された誤り音が日本語の語音の中に存在する音であり、
構音の仕方そのものには誤りがありません。
構音発達の途上にも見られます。

口蓋化構音、側音化構音は、構音の仕方そのものに誤りのある異常構音です。

通常、日本語の語音の中には見られない音であるため、
平仮名や片仮名では書き表すことが出来ず、
聴き取り難い耳障りな音に聞こえます。 異常構音

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

サ行音に見られる誤り－２－

＜口蓋化構音と　カ行音への置換との鑑別＞

サ行音の構音点が後方（口蓋）に移動し、口蓋化構音になると、
「カ行音に近いが、カ行音とは異なる独特の歪み音」に聞こえます。
この口蓋化構音をカ行音への置換と弁別をするためには、
「サ」と「カ」を交互に言うよう求めます。

「サ」「カ」「サ」「カ」･･･→　カ行音への置換→　口蓋化

ビデオのように、誤って構音された「サ」の音が、「カ」と同じであれば置換、
異なれば口蓋化構音であると判断することができます。

＜側音化構音と　ヒャ行音への置換との鑑別＞

サ行音が側音化構音になると、
「ヒャ行音に近いが、ヒャ行音とは異なる独特の歪み音」に聞こえます。
この側音化構音を　ヒャ行音への置換と弁別をするためには、
「サ」と「ヒャ」を交互に言うよう求めます。

「サ」「ヒャ」「サ」「ヒャ」･･･→　ヒャ行音への置換→　側音化

ビデオのように、誤って構音された「サ」の音が、「ヒャ」と同じであれば置換、
異なれば側音化構音であると判断することができます。

ただし、この鑑別方法は、「ヒャ行音は側音化構音となっていない」ことが前提です。
サ行音以外の音にも側音化が疑われる場合は、下口唇の下に鼻息鏡を当てて、
左右の口角からの呼気の漏れの有無を確認します。

正常構音→　側音化構音（左右口角からの呼気漏出）

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

サ行音の指導方法－１－

＜はじめに＞

構音の仕方の誤りや産生されている誤音を正しい方法による明瞭な構音に改善していくために、
正しい構音の仕方を指導するための方法を紹介します。
まず、本来産生するべき正しい音と自分が産生している誤った音との違いが理解でき、
正しい音や誤り音を、自分や指導者の発話の中から聞き取ったり、
正しい音に対する聞かせ与えられた音の正誤や、組み合わされた２つの音の異同を聞き分けたり
することができるようになるための指導（耳の訓練）をします。

耳の訓練

＜構音点法　構音点の位置づけ法①＞　ビデオはちょっと長めです！

口腔内の呼気を、歯と舌先との間にできた、わずかなすきまを通り摩擦させて、
前下方へ出すための構えを作ります。
舌を口の外に自然に出し脱力した安定した状態を保ちます。
ストローを舌の真ん中にそっと置きます。
舌は出したまま、ストローを舌と一緒にそっと上下の唇ではさみます。

このとき、ストローに歯を立てたり、唇に力を込めたりすることがないよう気を付けます。

呼気をそっと出します。ストローの中に呼気が流れるシューという音が聞こえてきます。
ストローの先を指先で塞いだり開けたりすると、途切れる音により呼気が流れていることを
確かめることができます。

このとき、ストローに呼気を吹き込むことのないよう気を付けます。

次第にストローを抜き去っていきます。
舌は出したままで、口の構えも保ったまま、そっと呼気を出し続けます。
舌先から完全にストローを抜き去っても、舌先にストローを近づけるとシューという音がなるので、
呼気の流れを確かめることができます。

この呼気に後続母音の「う」をつけて「す」を導きます。

舌は単音、その繰り返し、他の音と組み合わせて２音節や３音節の語頭、語尾、語中での練習を経て、
単語中での練習に入っても、後続母音を言い終わるまで出したまま構音します。
単語中で誤りなく安定して構音できるようになったら、次第に口腔内に収めていきます。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

サ行音の指導方法－２－

＜構音点法②＞

口と舌との構えを作るためだけに、ストローを用いる方法もあります。

口形を「ウ」にし、舌を出し、ストローを出した舌の上に置いて抜き去ります。
舌の位置や口の構えを保って、そっと呼気を出します。
この呼気に後続母音の「ウ」をつけて「ス」を導きます。

＜キーワード法＞

通常は前後の音や語内位置にかかわらず発話の中で一貫して誤りが見られていても、
ある特定の言葉を発するときにだけ、時として正しい音で発話することができると
いうことがあったとき、その言葉を指導に用いる方法です。

キーワードが見つかったら　まず、安定的に正しく構音された音を用いて
発話できるよう繰り返し発話させます。
続いて、少しずつ前に続く音を消去していきます。
それ一つの音で構音出来るようになったら、仮名文字等とマッチングさせるなどして
意識化させ、出そうとして出すことができるよう指導します。
そしてその安定を図ります。

キーワード法の実際については、カ行音の構音指導の例をご覧下さい。

キーワード法

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

サ行音の指導方法－３－

＜「ツ」からの誘導＞

「ツ」は「ス」と同じ構音点をもつ破擦音です。
舌が一瞬歯の裏に接触した後（破裂）、同じ構えで呼気が擦られ（摩擦）産生された音です。
「ツ」を　後続母音をつけずに構音した後、そのままの構えで呼気を伸ばしていると、
瞬間的に行われた破裂成分 t はなくなり、摩擦されて出された s の音が得られます。
この呼気に後続母音の「ウ」をつけて、「ス」を導きます。

＜「ヅ」からの誘導＞

「ツ」やその有声音の「ヅ」が構音できていたら、
「ヅ」を囁き声で言うように求め、無声化していきます。
子どもの意識は、「ヅ」を小さな声で囁くことですが、
指導者が与える聴覚的刺激は「ス」です。

＜異常構音の構音指導＞

口蓋化構音　側音化構音は、舌の脱力、安定を得てから、
音作りに入ります。
異常構音の構音指導の章をご覧下さい。　異常構音

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

サ行音の指導方法

＜搬化・定着のための指導＞

それ一つの音で出せるようになったらその安定を図ります。
前後にいろいろな単音を付けて組み合わせ、意味のない音のつながりの中で練習します。
３音以上のつながりでは　真ん中の音としての練習が可能です。
つける音によって難易度が変わります。
母音、子音、その中でも同じ後続母音をもつ子音、構音点や構音方法が同じ子音などの
様々な組み合わせや、語内位置、発話速度など
いろいろな条件下で十分に練習を積み習熟させます。

また、これまで誤って置き換えていた音と組み合わせての練習も必要です。
意味のない音のつながりの中で安定が得られたら、ターゲットの音が初めにつく単語、
最後につく単語、真ん中につく単語の中で練習し、次第に発話の量を増やしていきます。
ターゲットの音や誤って置き換えていた音を多く含む文章を音読したり暗唱したりする、
早口で繰り返すなど、負荷を掛けても誤りが見られなくなることを目指します。

指導の実際→搬化・定着のための指導

＜自己修正力を育てるための指導＞

構音指導の中では自己修正力を育てることも大切です。
発話の中で自分や指導者の構音の正しさを吟味して誤りや曖昧さに気づき、
必要があれば誤りを修正することができるための力を育てます。
誤りの自覚については、始めは指導者の誤りに気付くことができる段階から、
やがて自分の誤りに気付くことができるようにと指導を進めます。

また、直接「違うよ」などと音の誤りや誤った音を指摘されたり、
何らかのサインを送られたりして気付く段階から、言った途端に自ら気付く段階へと指導します。
自己修正については、モデルの音を聴いたり、構音の方法を観たりしてできる段階から、
工夫や努力なしに１回で出来る段階へと指導します。

指導の実際→ **自己修正力を育てるための指導** **その２**

＜指導終了の目安＞

本人や保護者の希望、転校や進学などによって早期に終了することが求められた場合、
どのような状況下でもまったく誤りなく構音出来るまでに搬化、定着をみなくても、
必要が生じたときに意識して言おうとすれば、
１回から数回の試みで正しい音に達することができる力があるかどうかが
終了可否の目安となります。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

タ行音とは、

ここではタ行音の構音指導について概説します。

タ行音は、歯・歯茎と舌先を構音点とする、無声の破裂音です。

日本語の５０音表では　た行の音は、「た、ち、つ、て、と　」となっていますが、
このうち「ち」は、他のた行音「た、つ、て、と」に比べ構音点がやや後ろに移行した
歯茎硬口蓋と前舌を構音点とする破擦音で、
ちゃ行音「ちゃ、ち、ちゅ、ちぇ、ちょ」のい列の音』とでも言うべき音です。
「つ」は、「た、と、て」と同じ歯・歯茎と舌先を構音点とする音ですが、
構音方法が破擦音である点が「た、て、と」の音とは異なっており、
『つぁ行音「つぁ、つぃ、つ、つぇ、つぉ」のう列の音』とでも言うべき音です。
破擦音は、破裂音と同様に閉鎖して呼気を解放した直後に同じ位置で狭めを作り
呼気を流出させた時に生じる音です。

t行音のい列・う列の音は、それぞれ「てぃ」・「とぅ」という感じの音となります。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

タ行音に見られる誤り－１－

＜タ行音に見られる誤りの例＞

- **子音 t の省略による母音化**
- **カ行音への置き換え**
- **口蓋化構音**
- **「つ」の構音点が後方へ移動しておこる「ちゅ」への置換**
- **「ち」「て」に多い側音化構音**　などです。

このうち、子音の省略、置換では、産生された誤り音は日本語の語音の中に存在する音であり、
構音の仕方そのものに誤りはありません。
構音発達の途上にも見られます。

口蓋化構音、側音化構音は構音の仕方そのものに誤りの有る異常構音です。
通常日本語の語音の中には見られない音であるため、平仮名や片仮名では書き表すことができず、
聴き取り難い耳障りな音に聞こえます。 異常構音

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

タ行音に見られる誤り－２－

＜口蓋化構音とカ行音への置換との鑑別＞

タ行音の構音点が後方（口蓋）に移動し、口蓋化構音になると、
「カ行音に近いが、カ行音とは異なる独特の歪み音」に聞こえます。
この口蓋化構音を　カ行音と弁別をするためには、
「タ」と「カ」を交互に言うよう求めます。

「タ」「カ」「タ」「カ」・・・→カ行音への置換→　口蓋化構音

誤って構音された「タ」の音が、「カ」と同じであれば置換、
異なれば口蓋化構音であると判断することができます。

＜「チ」「テ」の側音化構音と　「キ」「ケ」への置換との鑑別＞

「チ」や「テ」の音が側音化構音になると、
「『キ』や『ケ』の音に近いが、それらのとは異なる独特の歪み音」に聞こえます。
この側音化構音を「キ」や「ケ」の音と弁別をするためには、
「チ」と「キ」、「テ」と「ケ」を交互に言うよう求めます。

「チ」「キ」「チ」「キ」・・・→「キ」への置換→　側音化構音

誤って構音された「ち」や「て」の音が、「き」や「け」と同じであれば置換、
異なれば側音化構音であると判断することができます。

ただし、この鑑別方法は、「き」や「け」の音が側音化構音となっていないことが前提です。
「き」や「け」の音以外の音にも側音化が疑われる場合は、下口唇の下に鼻息鏡を当てて、
左右の口角からの呼気の漏れの有無を確認します。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

タ行音の指導方法－１－

＜はじめに＞

構音の仕方の誤りや産生されている誤音を正しい方法による明瞭な構音に改善していくために、

正しい構音の仕方を指導するための方法を紹介します。

まず、本来産生するべき正しい音と自分が産生している誤った音との違いが理解でき、

正しい音や誤音を、自分や指導者の発話の中から聞き取ったり、

正しい音に対する聞かせ与えられた音の正誤や組み合わされた２つの音の異同を聞き分けたり

することができるようになるための指導（耳の訓練）をします。

耳の訓練

＜構音点法＞

舌を脱力した状態で出し、「アー」を構音し続けます。

その状態のまま前歯を軽く舌にあてて呼気の流出を遮断します。

前歯を舌からはなして閉鎖を開放すると**「タ」の音（破裂音）が得られます。**

「アー」の構音を続けていなくても、前歯を舌からはなしたときに

「ア」を構音することによって**「タ」の音を得ることができます。**

また、舌を前歯の裏につけておき、

離すときに「ア」を構音することによっても**「タ」の音を得ることができます。**

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

タ行音の指導方法－２－

＜キーワード法＞

通常は前後の音や語内位置にかかわらず発話の中で一貫して誤りが見られていても、
ある特定の言葉を発するときにだけ、時として正しい音で発話することができる
ということがあったとき、
その言葉を指導に用いる方法です。

キーワードが見つかったら　まず、安定的に正しく構音された音を用いて発話できるよう
くりかえし発話させます。
続いて　少しずつ前に続く音を消去していきます。
それ一つの音で構音できるようになったら、仮名文字等とマッチングさせるなどして意識化させ、
出そうとして出すことができるよう指導します。
そしてその安定を図ります。

キーワード法の実際については、カ行音の構音指導の例をご覧下さい。
⇨キーワード法

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

タ行音の指導方法－３－

＜「ツ」の「ス」からの誘導＞

「ス」を構音し続けます。
その状態で舌を前歯の裏に接触させて呼気の流出を遮断し、
次に舌をそっと前歯からはなして閉鎖を開放すると「つ」の音が得られます。

「ス」の構音をし続けなくても、「ス」の構音の構えをつくっておいて、
舌を前歯の裏に接触させて呼気の流出を遮断し、
次に舌をそっと前歯からはなして閉鎖を開放するとき同時に「ス」と構音することによっても
「ツ」の音が得られます。

舌を軽く口の外に出して行うと分かりやすいです。

＜「チ」の「シ」からの誘導＞

「シ」を構音し続けます。
その状態で舌を前歯の裏に接触させて呼気の流出を遮断し、
次に舌をそっと前歯からはなして閉鎖を開放すると「チ」の音が得られます。

「シ」の構音をし続けなくても、「シ」の構音の構えをつくっておいて、
舌を前歯の裏に接触させて呼気の流出を遮断し、
次に舌をそっと前歯からはなして閉鎖を開放するとき同時に「シ」と構音することによっても
「チ」の音が得られます。

舌を軽く口の外に出して行うと分かりやすいです。

＜「チ」の「チュ」からの誘導＞

「ツ」が「チュ」に置き換わることはあるが「チ」は意図的には構音できないことがあります。
「チュ」が安定して構音できたら、できるだけゆっくり構音するように求めます。
「イ」の口形で構音し始め、できるだけゆっくり構音させて、
「チ」の部分でとめ、「チ」の音を取り出します。

＜口蓋化構音　側音化構音＞

口蓋化構音　側音化構音は、舌の脱力、安定を得てから、音作りに入ります。
異常構音の指導の章をご覧下さい。

異常構音の指導

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

タ行音の指導方法－４－

＜搬化・定着のための指導＞

それ一つの音で出せるようになったらその安定を図ります。
前後にいろいろな単音を付けて組み合わせ、意味のない音のつながりの中で練習します。
３音以上のつながりでは　真ん中の音としての練習が可能です。
つける音によって難易度が変わります。
母音、子音、その中でも同じ後続母音をもつ子音、構音点や構音方法が同じ子音などの
様々な組み合わせや、語内位置、発話速度など
いろいろな条件下で十分に練習を積み習熟させます。

また、これまで誤って置き換えていた音と組み合わせての練習も必要です。
意味のない音のつながりの中で安定が得られたら、ターゲットの音が初めにつく単語、
最後につく単語、真ん中につく単語の中で練習し、次第に発話の量を増やしていきます。
ターゲットの音や誤って置き換えていた音を多く含む文章を音読したり暗唱したりする、
早口で繰り返すなど、負荷を掛けても誤りが見られなくなることを目指します。

指導の実際→搬化・定着のための指導

＜自己修正力を育てるための指導＞

構音指導の中では自己修正力を育てることも大切です。
発話の中で自分や指導者の構音の正しさを吟味して誤りや曖昧さに気づき、
必要があれば誤りを修正することができるための力を育てます。
誤りの自覚については、始めは指導者の誤りに気付くことができる段階から、
やがて自分の誤りに気付くことができるようにと指導を進めます。

また、直接「違うよ」などと音の誤りや誤った音を指摘されたり、
何らかのサインを送られたりして気付く段階から、言った途端に自ら気付く段階へと指導します。
自己修正については、モデルの音を聴いたり、構音の方法を観たりしてできる段階から、
工夫や努力なしに１回で出来る段階へと指導します。

指導の実際→ **自己修正力を育てるための指導** **その２**

＜指導終了の目安＞

本人や保護者の希望、転校や進学などによって早期に終了することが求められた場合、
どのような状況下でもまったく誤りなく構音出来るまでに搬化、定着をみなくても、
必要が生じたときに意識して言おうとすれば、
１回から数回の試みで正しい音に達することができる力があるかどうかが
終了可否の目安となります。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

ラ行音とは、

ここではラ行音の構音指導について概説します。

ラ行音は、 歯茎・舌先を構音点とする、弾音です。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

ラ行音に見られる誤り－１－

ラ行音に見られる誤り

☆ラ行音の誤りとして見られるものは・・・・

・子音ｒの省略による母音化
・ダ行音への置き換え
・「リ」に見られることが多い側音化構音　などです。

＜ラ行音に見られる誤りの例＞

子音ｒの省略による母音化

ダ行音への置き換え

側音化構音

＜補足＞

- ダ行音への置換では、ｒがｄに置き換えられ、「ラ・リ・ル・レ・ロ」が　「ダ・ディ・ドゥ・デ・ド」となる場合が一般的で「リ」や「ル」が、５０音表のだ行にあるような「ヂ」や「ヅ」に置き換わるこほとんどありません。

- 子音の省略、置換では、産生された誤り音は、日本語や日本語話者が話す外来語音の中に存在する音であり、構音の仕方そのものに誤りはありません。構音発達の途上にも見られます。

- 側音化構音は構音の仕方そのものに誤りの有る異常構音です。通常日本語の語音の中には見られない音であるため、平仮名や片仮名では書きことが出来ず、聴き取り難い耳障りな音に聞こえます。異常構音

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

ラ行音に見られる誤り－２－

＜相互置換について＞ 例１ 例２

ラ行音がダ行音に置き換わっている例では、同時にダ行音がラ行音にも置き換わっているという、ラ行音とダ行音との**相互置換**が見られることがあります。
相互置換は、ラ行音やダ行音の構音そのものは獲得しているが、常に誤りなく構音することが出来ない状態であることを意味します。

＜側音化構音の診断＞
ラ行音の「リ」が側音化構音になると、「ギ」に近いが、「ギ」とは異なる独特の歪み音に聞こえます。
側音化が疑われる場合は、下口唇の下に鼻息鏡を当てて、左右の口角からの呼気の漏れの有無を確認します。
また、他の音に側音化がないかどうか検査します。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら・・・
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化・定着のための指導
- 搬化・定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

ラ行音の指導方法－１－

＜はじめに＞

構音の仕方の誤りや産生されている誤音を正しい方法による明瞭な構音に改善していくために、
正しい構音の仕方を指導するための方法を紹介します。
まず、本来産生するべき正しい音と、自分が産生している誤った音との違いが理解でき、
正しい音や誤音を、自分や指導者の発話の中から聞き取ったり、
正しい音に対する聞かせ与えられた音の正誤や　組み合わされた2つの音の異同を

聞き分けたりすることが出来るようになるための指導（耳の訓練）をします。
耳の訓練の詳細につきましては、別の章をご参照下さい。耳の訓練

＜構音点法＞

舌先を挙げて上顎前歯の裏あたり着けることによって、出した声の呼気の流れを妨げることを練習します。

または、舌先を挙げて上顎前歯の裏あたりに着け、

声を出し続けたまま舌先を下げて上顎前歯の裏あたりから離す練習をします。

舌先を挙げたり下げたりすることによって、出し続けた声の聴覚印象が大きく変わります。
出す声は母音で、aから練習します。母音（口形）の違いが　ら行音の後続母音の違いとなります。

舌先を口の奥の方に巻き込む必要はありません。
また、巻きを解いて勢いよく口の前方に弾き出す必要もありません。
舌を挙げ下げし、上顎前歯の裏あたりに触れることが出来れば構音は可能です。

＜舌先の機能を高めるための練習＞

舌を出来るだけ前方や下方に出すように求め、舌に力を込め緊張させます。

舌先で歯の表裏や歯と頬の間、唇についた食物等を舐めとらせます。

舌先で皿などに着いた食物等を舐めとらせます。

舌先で紙に穴を開けさせます。

舌先で砕いた食物片をとらせます。

舌先で口蓋を前後にたどらせます。

＜舌小帯短小（短縮）症との関連＞

舌を持ち上げたとき、舌の裏側と下顎の歯肉につながる底面（口底）が観察されます。

舌の裏側の正中と口底の正中とを結ぶひだを「舌小帯」と言います。
これが舌の先の方、または口底の歯に近い方に着いていて短い場合を「舌小帯短小症」と言います。

これがあると、舌の運動は制限され、舌を出来るだけ出すように求めると、
正中がつれてハート型になります。
しかし、ハート型になるような例でも、口の開き方を少なめにするなどして舌先を上顎前歯の
裏あたりまで挙げて使うことが出来れば、rの構音は可能であり、舌小帯短小症が構音障害や
その改善のための伸展術の対象となることはほとんどありません。

＜舌の機能の検査や、rの構音指導のワンポイントアドバイス＞

舌先を挙げることが出来るかどうかを調べるときには、
口を大きく開けた状態で出来るかどうかを観ることが必要です。
しかし、口頭命令や検査者が実際にやって見せるなどの方法により、
子どもの注意を舌先を挙げることに向けさせると、下顎を動かし、口の開け方を小さくしてしまう可能性があります。
そこで、舌先を上顎前歯の裏に着けさせ、その状態で下顎を下に引いて口を大きく開けることを求めると、
下顎の動きと切り離して舌の運動機能を調べることが出来ます。
r音の搬化定着のためには、下顎の動きの助けを借りず、舌先を独立させて動かせることが必要です。
そこで、下顎の動きを制限して舌先を動かす練習をします。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら・・・
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化・定着のための指導
- 搬化・定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

ラ行音の指導方法－２－

＜キーワード法＞

通常は前後の音や語内位置にかかわらず発話の中で一貫して誤りが見られていても、
ある特定の言葉を発するときにだけ、時として正しい音で発話することができる
ということがあったとき、
その言葉を指導に用いる方法です。
キーワードが見つかったら　まず、安定的に正しく構音された音を用いて発話できるようくりかえし発話させます。
続いて　少しずつ前に続く音を消去していきます。

それ一つの音で構音できるようになったら、仮名文字等とマッチングさせるなどして意識化させ、
出そうとして出すことができるよう指導します。

そしてその安定を図ります。
キーワード法の実際については、カ行音の構音指導の例をご覧下さい。
キーワード法

＜側音化構音の指導＞

側音化構音は、舌の脱力、安定を得てから、音作りに入ります。
異常構音の構音指導の章をご覧下さい。
側音化構音の指導

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

ラ行音の指導方法－３－

＜搬化・定着のための指導＞

それ一つの音で出せるようになったらその安定を図ります。
前後にいろいろな単音を付けて組み合わせ、意味のない音のつながりの中で練習します。
３音以上のつながりでは　真ん中の音としての練習が可能です。
つける音によって難易度が変わります。
母音、子音、その中でも同じ後続母音をもつ子音、構音点や構音方法が同じ子音などの
様々な組み合わせや、語内位置、発話速度など
いろいろな条件下で十分に練習を積み習熟させます。

また、これまで誤って置き換えていた音と組み合わせての練習も必要です。
意味のない音のつながりの中で安定が得られたら、ターゲットの音が初めにつく単語、
最後につく単語、真ん中につく単語の中で練習し、次第に発話の量を増やしていきます。
ターゲットの音や誤って置き換えていた音を多く含む文章を音読したり暗唱したりする、
早口で繰り返すなど、負荷を掛けても誤りが見られなくなることを目指します。

指導の実際→搬化・定着のための指導

＜自己修正力を育てるための指導＞

構音指導の中では自己修正力を育てることも大切です。
発話の中で自分や指導者の構音の正しさを吟味して誤りや曖昧さに気づき、
必要があれば誤りを修正することができるための力を育てます。
誤りの自覚については、始めは指導者の誤りに気付くことができる段階から、
やがて自分の誤りに気付くことができるようにと指導を進めます。

また、直接「違うよ」などと音の誤りや誤った音を指摘されたり、
何らかのサインを送られたりして気付く段階から、言った途端に自ら気付く段階へと指導します。
自己修正については、モデルの音を聴いたり、構音の方法を観たりしてできる段階から、
工夫や努力なしに１回で出来る段階へと指導します。

指導の実際→ **自己修正力を育てるための指導** **その２**

＜指導終了の目安＞

本人や保護者の希望、転校や進学などによって早期に終了することが求められた場合、
どのような状況下でもまったく誤りなく構音出来るまでに搬化、定着をみなくても、
必要が生じたときに意識して言おうとすれば、
１回から数回の試みで正しい音に達することができる力があるかどうかが
終了可否の目安となります。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、

異常構音とは、

異常構音の構音指導
異常構音とは
正常とは異なる構音操作により産生される音で、平仮名やカタカナでは書き表すことの出来ない、日本語の語音の中にはない歪んだ音として聞こえます。

構音点や構音方法によって幾つかの種類に分類されます。
声門破裂音
咽頭破裂音
咽頭摩擦音
口蓋化構音
側音化構音
鼻咽腔構音　など

各異常構音がどこでどのように作られるどのような特徴をもつ音か、なりやすい音は何か、
置換や省略などとどのように見分けるかなどについては、理論編の異常構音をご参照下さい。
異常構音

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、

異常構音の指導方法－１－

異常構音の構音指導

＜口蓋化構音の構音指導＞

・舌の脱力が出来るようにします。⇨舌の脱力のための指導
・サ･ザ行音は、脱力した舌を動かさず、上歯と舌の間から呼気を出して歯間音のθを作ることから始めます。

・タ･ダ行音は、脱力した舌を軽く下口唇に乗せるようにして出し、軽く前歯で挟んで閉鎖を作り、舌はそのままの状態で下顎を下げるようにして口を開けながら少し長めに呼気を出して破裂を作ります。

・ナ行音は、脱力した舌を下口唇まで出し、軽く前歯で挟み、「ンーっていって」などと促します。舌をそのままの位置に保って口を開けながら「んー」に続けて「あ」を出させます。これをゆっくりでなく少し速く行うことによって「ナ」が得られます。

・ラ行音は、舌尖を上歯茎に軽く接触させ、そのままの状態で軽く声を出させると、「ウ」のような音が出ます。それに続けて「アー」を出させると、舌が離れて「ラ」に近い音が出ます。これをゆっくりでなく次第に速めていくことで「ラ」が得られます。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、

異常構音の指導方法－２－

＜側音化構音の構音指導＞

舌の脱力が出来るようにします。舌の脱力のための指導
イ列音の作り方を紹介します。

・イの音を作ります。

・シは、脱力した舌を少し出させて上歯との狭めを作りそっと呼気を出して歯間音のθを作り、その音に続けて「イ」を出させ、「スィ」から「シ」を導きます。

・チは、「シ」の口形で舌を軽く挟んで呼気を止め、開放するとtʃになるので、それに続けて「イ」をゆっくり言わせ「チイ」へと導きます。

・ニは、脱力した舌を軽く挟んで「ン」の声を出させ、それに続けて「イ」を言わせることにより「ニ」を導きます。

・キやギは、「イ」の口形を作り、そのままの状態で「クイ」または「ケイ」や「グイ」または「ゲイ」を速く言わせることによって導きます。

・リは、舌尖を上の歯茎部に着け、そのままの状態で出した声に「イ」を続けるよう促すと、舌が離れて「ウリー」のような音になります。これを速く言うようにすると「リ」が得られます。

・ヒは、「イ」の口形から聴覚刺激法でゆっくりと「ヒイ」と促すことにより得られる場合が多いです。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら･･･
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化･定着のための指導
- 搬化･定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

異常構音の指導－３－

＜舌の脱力のための指導＞

口蓋化構音や側音化構音の構音指導を開始するにあたって
最初に行わなければならない指導は、舌の脱力です。
舌の力を抜いて平らな舌を作ることを目標とします。

舌を出させます。　「あかんべーして」

よい位置で出させることが必要です。　**「もう少しうしろね」**

全身もリラックスさせます。

全身の脱力

緊張状態を作り一気に息を吐きながら脱力

息止めからの脱力

脱力のできたよい例　＜写真＞

脱力のできていない例　**丸い棒状になった舌＜写真＞**
波打っている舌＜写真＞
奥が挙がっている舌＜写真＞
舌縁が挙がったり波打ったりしている舌＜写真＞

舌を前に出させることは有効ですが、出すことにのみ関心がいってしまうと
かえって舌に力が入ってしまいます。
口角を強く引きすぎていても、舌に力が入ってしまいます。

下口唇を巻き込むように口腔内に入れたり、
舌先を下前歯の裏に当てたり下口唇と下前歯の間に差し挟んでいたりしても
舌の力は抜けません。

口角まで横に開いたふんわりとしたやわらかい舌が出来るようになったら、
この状態で呼気から「ハ」「ヘ」、更に母音「ア」「エ」が出せるようにします。

側音化構音では、更に「イ」が出せるようにします。**側音化構音の構音指導**

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら・・・
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化・定着のための指導
- 搬化・定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

搬化・定着のための指導

搬化・定着のための指導

指導場面で、仮に偶発的に（たまたま）であっても、ターゲットとする音を出すことが出来たら、今度はその音を、出そうとして意図的に出すこと（再生）が出来るようになることを目指します。
そして、指導場面で、ある音を、注意を集中し気をつけて出そうとすれば出すことが出来るようになったら、その音をどのような条件の下でも出すことが出来るようになることや、常に誤りなく確実に正しく出すことが出来るようになること、やがて、全く無意識にあらゆる条件下で出すことが出来るようになることを目指します。

搬化・定着とは？

単音やある特定の単語の中で出せるようになった音を、語内位置や前後音などが異なる他の単語の中でも、誤りなく出せるようになることを「搬化」と言います。
例えば、単音で出せるようになった「カ」の音を、「カラス」でも「スイカ」でも「サカナ」でも出すことが出来、また、そのことばについては取り立てて練習したことがないということばの中でも、言ってみたら正しく出すことが出来たというようになることを「搬化」と言います。
また、どのような条件下でも無意識のうちに全くオートマチックに正しく出せるようになることを「定着」と言います。
定着するということは、まさに自分のものになること、身につくということです。

搬化・定着のための心得

指導場面で「カ」が出たら、直ぐ「カラス」「スイカ」「サカナ」などと意味のある言葉や文の中で使いたくなるのが、指導者や子どもの人情です。
嬉しくなって、つい、実用的なコミュニケーションに用いたくなります。
しかし、搬化や定着を効率よく確実に遂げるためには、進まない勇気・戻る勇気を持つことが肝要です。構音指導は「急がば回れ」と心得ることが大切なのです。

「急がば回れ」の理由

例えば、「カ」と「カラス」の「カ」と、「スイカ」の「カ」と、「サカナ」の「カ」は、人の耳には同じ音として聴こえます。文字で書けばいずれも同じ形で書き表される同じ文字です。
しかし、この「カ」は、物理的には全く別の音です。それどころか、同じ一人の人が、単音や同じことばの中で使った同じ文字の音でさえも、直前に出した音と同じ音として再生することは出来ません。
同じ音として聴こえる音も、実際には単語の中や文の中で前後の音に影響されて、微妙に構音点や呼気の妨げの量を変化させて作られています。このことにより、聴き手には自然なことばとして聴き取ることが出来、話し手も淀みなく流暢に話すことが出来るのです。
前後音の影響による微妙な構音点などの変化は、すべて無意識のうちに省力化のためになされています。このことを「音の渡り」と言っています。
もし、音の渡りがなかったら、話されたことばは、例えば一昔前の駅のプラットホームやワンマンバスの車内に流れるアナウンスのような、また、映画の中でロボットが話していることばのような、いかにも合成音声といった感じの、一本調子で硬くぎこちないことばとして聴こえるはずです。
自然で淀みなく一まとまりの意味のあることばとして聴き取ることが出来るのは、単語や文が、常にたった一つのやり方で構音された一音一音の連続ではないからです。
構音指導では、徹底してこの渡りの練習を積むことが必要です。
そのために、系統的な指導の計画を立て、段階的に指導を進めていきます。

もし、先を急いで「回れ」をしないと・・・

「指導場面では、ちゃんと確かな「カ」出せるのに、日常生活場面になるといつまで経ってもさっぱり以前の誤りが治らない、どうしてなの？」つまり日常会話に搬化しないという厄介な状況を招く恐れがあります。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら・・・
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化・定着のための指導
- 搬化・定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

搬化・定着のための指導の方法

搬化・定着のための指導の方法

①単音の繰り返しの中で

単音で出すことが出来るようになったら、まずその単音の安定を目指します。
2音、3音、4音・・・と連続させて練習します。
また、連続した音を繰り返したり、リズムをつけたり、速度を上げたりします。

②意味のない2音節の組合せの中（前や後ろ）で

前や後ろに異なる音をつけ、2音を組み合わせて意味のない2音節を作り、
音節のまとまりの中の前の音や後ろの音として練習します。
つける音によって、幾通りもの組合せが成立します。
　母音であれば、ターゲットの音の後続母音が同じか、異なるか
　子音であれば、
　　構音点が同じか、近いか、遠いか
　　構音方法が同じか、摩擦に対する破擦のように一部が同じか、異なるか、
　　後続母音がターゲットの音と同じか、異なるか
これらの点から考えて、本人にとって構音が容易なものから難しいものへと組み合わせる音を変えていきます。
同じ子音部をもつ後続母音が異なる音との組み合わせについては、組み合わせる音が獲得されていることが条件となります。
誤って出されていた音との組み合わせての練習もします。
この練習でも、繰り返したり、速さを増したりして難易度を変化させます。

③意味のない3音節の組合せの中（前や後ろや真ん中）で

前後に異なる音をつけ、3音を組み合わせて意味のない3音節を作り、3音節のまとまりの中の前や後ろや真ん中の音として練習します。
組み合わせる前後の音によって、幾通りもの組合せが成立します。
前後の音は、同じ場合と異なる場合とがあります。

④意味のあることば（単語）の中で

意味のあることばの中の最小の単位である単語の中で練習します。
ターゲットの音が前につく2音節単語で
ターゲットの音が後ろにつく2音節単語で
ターゲットの音が前につく3音節単語で
ターゲットの音が後ろにつく3音節単語で
ターゲットの音が真ん中につく音節単語で
というように次第に音節数の多い単語の中で練習するようにします。
繰り返しや、早口で練習します。

⑤句や短い文の中で

次第に発話の長さを増していきます。
意図的にターゲットの音や同じ子音部を持つ音が多く含まれるように作られた文などで練習します。
繰り返したり、早口で言ったりします。

⑥より長い文章の中で

⑦会話の中で

一問一答（Ｑ＆Ａ）形式の会話や、テーマを定めての会話、自由な会話など、様々な会話形式の中で練習します。

⑧日常生活の中の日常会話の中で、観察を通して

⑥以降の練習の中では、これまで使ってきた楽な話し方をした結果つい癖が出て誤ってしまっても、そのことに自ら気付き、自分から修正を試み、出来るだけ少ない回数の中で正しく言い直すことが出来るようになることが指導の内容になってきます。

○指導の中で用いる手立てについて

・書かれたものの音読の方が、復唱や暗唱よりも容易であるという場合が多いです。
・注意を惹きつけるための何らかのマーカーがあると、音読は更に容易になります。
・暗唱よりも、モデルがある復唱のほうが容易であるという場合が多いです。
・繰り返しの回数、発話速度などを増し、難易度を上げます。
・単音では獲得されているはずの音の指導ですが、その音の獲得のための指導の過程で用いた教材、教具などは手元に置き、いつでも用いることが出来るようにします。

○もし、誤りが生じたら・・・

段階的に指導を進める中で、音に誤りが生じ、それがなかなか改善されなかったら、壁に当たったな、ハードルが高かったかなと考えましょう。

一つ前の段階に戻り復習をします。その段階で音が安定し自信も持てたら、指導を先に進めます。

トップページ
- トップページ
- 構音とは、構音器官とは？
- 構音障害とは？構音発達とは？
- 構音障害のいろいろな側面
- 構音障害が疑われたら・・・
- 構音障害の診断
- 構音障害の種類
- 誤り音の種類
- 異常構音とは、
- 構音指導の内容
- 『実践編』トップページ
- はじめに
- 構音指導の進め方
- 指導を深めていく
- 指導を拡げていく
- 指導のイメージ図
- 耳の訓練とは、
- 耳の訓練の実際
- カ行音とは、
- カ行音の誤り－１－
- カ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- サ行音とは、
- サ行音の誤り－１－
- サ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- タ行音とは、
- タ行音の誤り－１－
- タ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 指導方法－４－
- ラ行音とは、
- ラ行音の誤り－１－
- ラ行音の誤り－２－
- 指導方法－１－
- 指導方法－２－
- 指導方法－３－
- 異常構音とは、
- 口蓋化構音の指導
- 側音化構音の指導
- 舌の脱力のための指導
- 搬化・定着のための指導
- 搬化・定着のための指導の方法
- 自己修正力を育てるための指導

自己修正力を育てるための指導

音づくりは耳づくり

自分が発した音が、本来出すべき正しい音や、構音指導の過程で教師が求める音に対してどうであったのか、同じ音であったのかそうでなかったのかが分かったり、また、自分で自信をもって判断することが出来たとか出来なかったという自覚が持てたりすることは、構音指導の開始から終了に至るまでの全ての過程を通して求められる大切な力です。

そもそも、構音指導を始めるためには、自分の発した音が、本来出すべき正しい音とは異なっていて、このような音になっているということに対する自覚が必要です。そうでなければ、指導者にとっても子どもにとっても意図的で計画的な営みである構音指導によって（子どもに指導を意識させない自然法であれば別ですが）、その子には無い音を作ったりその子が誤っている音を治したりしていくことは出来ません。

従って、もし、自分の発した音が誤っているとの自覚が無い場合には、いわゆる「耳の訓練」によって、本来出すべき正しい音とその子が発している誤った音との聴取弁別が出来るようになるための指導から始めます。

この聴取弁別の力は、指導の開始時にはもちろんですが、構音指導を進めていく中で、あらゆる過程で常に求められる力です。開始時には、弁別が出来ることにより、指導を受けることの意味を理解し、自己治療意識を高めることが出来ます。ターゲットの音は、最終的には本来出すべき正しい音ですが、構音指導の過程では、子音であったり、漸次接近法の場合には、誤っている音と最終的なターゲットの間に連続的に存在する無数の音であったりします。子どもは、教師がモデルとして聴かせ与えるその時々のターゲットの音やその音に対するイメージと、自分が発した音とを聴き比べ、どうであったかを判断するのです。

耳づくりの段階的指導

・ はじめは、教師が発した正しい音と誤っている音とを聴き比べさせます。
「この文字の音は、こんな音」、「この文字を音にかえると、こうなります」などと言って、ターゲットの音と誤っている音それぞれについて文字に対応するモデルとなる音を聴かせます。
文字を示しつつ、ターゲット音に対する他の音の正誤や、ターゲットの音や誤っている音がどちらの文字の音であったか、２音の連続が同じ音同士の組み合わせであったか異なる音の組み合わせであったかなどを弁別させます。
次第に文字を消去していきます。

・ 次第に自分が発した音がターゲットの音に対してどうであったかを判断するようにさせます。
はじめは、「今の音はどうだった？」などと問い掛けて、注意を促します。
次第に自分から吟味出来るようにしていきます。

聴取弁別から自己修正の力へ

・ 発してしまった誤りに対して、修正を求めます。
はじめは、教師が直接誤りを指摘します。
直接、誤っていたことを告げ、修正を求める段階から、次第に自分から誤りに気づいて修正を試みることが出来るようにしていきます。
子どもの構音に誤りがあった時、「今のこの音がこんな音になっていたよ」と、ターゲットの音や誤って出された音を示すという段階から始め、「今は？」「ん？」などと言って気づきを促し、分からなければ教え、自分から気づいた時には「よく聴いていたね」などと言って称賛することを通して、常に自分の発した音に耳を傾け注意深く聴き取って音の正しさを吟味しようとする態度と能力を育てていきます。
聴取弁別の力と、自分の発した音の、ターゲットの音に対する正しさを吟味しようとすることが出来る態度と能力が求められます。

・ 誤りに対して、修正することを求めます。
はじめは、教師が正しい音のモデルを聴かせ与え、復唱を求めます。
修正が困難な場合は、音の作られ方を視覚的に示したり、説明したり、実際に音の作り方の復習をしたりします。
音作りまで戻った場合は、単音節で正しく出せることを確認した上で、修正にトライさせます。
次第にモデルが無くても、自分で試行錯誤してターゲットの音に至れるようにしていきます。
数回のうちに正しい音に至れなかった場合は、誤った音の繰り返しになることを避

けるために、修正の強要はしないようにします。この場合は、指導を一つ前の段階に遡って十分な安定が得られてから次の段階に進むようにします。

自己修正は、誤った音に対して注意を集中し、意識して出そうとして出せば正しく出すことが出来るという段階になったときに求めます。

この自己修正の力が備わっているかどうかは、日常会話レベルでの十分な改善が見られないうちに、卒業や転校、家庭の事情など、何らかの理由で早期に指導を終了しなければならない場合に、終了の可否を判断するための条件の一つとなります。

Ⅳ．動画教材の評価

１．動画教材の試用と評価アンケート

（１）目　的

作成した動画教材の改善のため、試用と評価アンケートを実施した。主たる評価項目は、インターネット使用環境、動画教材の表示等技術的な問題に関する評価、動画教材の内容に関する評価であった。特に、この動画教材が子どもや保護者に使用できるかどうかについても評価を依頼した。

（２）手続き

①対　象

対象は、研究協力者の居住地域に勤務する言語障害学級及び通級指導教室担当者、難聴学級及び通級指導教室担当者と、『子どもの発達支援を考えるＳＴの会』に所属する言語聴覚士等で、合計75名であった。

②実施時期

平成21年1月29日から平成21年2月10日の間に、動画教材の試用と評価アンケートを依頼した。

③方　法

動画教材の試用はインターネットＷＥＢサイトの閲覧によって依頼した。評価アンケートは、研究代表者から回答用紙を電子ファイルで回答者に送付し、回答者からは回答の入った電子ファイルまたはＦＡＸにて直接研究代表者に返送するよう依頼した。

④評価アンケートの内容

評価アンケートは、以下の内容であった。

・回答者の属性について
・回答者のインターネット利用環境について
・動画教材の画面表示について
・動画教材の内容について

２．評価アンケート結果

（１）回答者の属性

①年　齢

回答者の年齢分布を図５に示した。40歳台が最も多く36名であった。次いで30歳台、50歳台、20歳台の順であった。

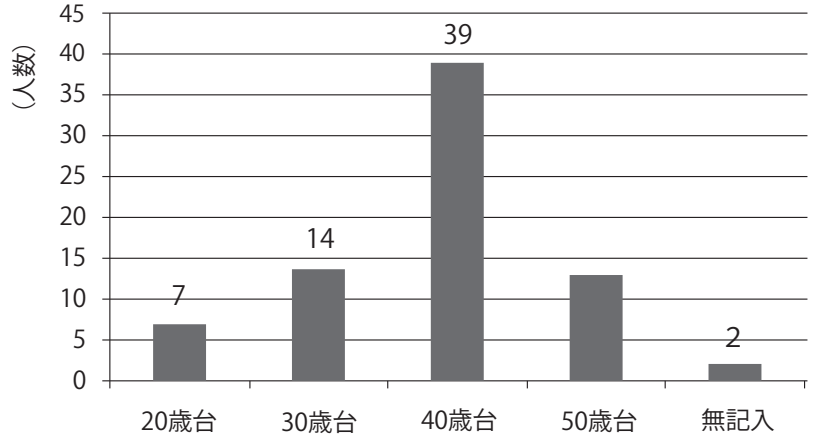


図５．回答者の年齢

②勤務先

回答者の勤務先を選択肢のよって尋ねた結果を図６に示した。回答者の約半数が言語障害学級及び通級指導教室の担当者であった。また、回答者のうち68.0％が学校の教員であり、学校以外に勤務する言語聴覚士とその他を合わせると、32.0％であった。

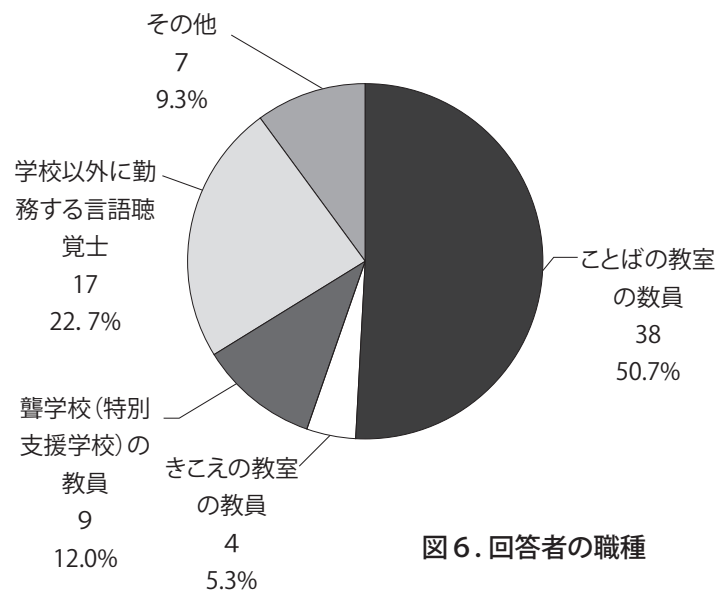


図６. 回答者の職種

③経験年数

言語障害のある小児への指導経験について年数（年目）で回答を求めた結果を図７に示した。10年未満（１年目から９年目）が45名で全体の60.0％であり、特に１から３年目が27名で最も多かった。

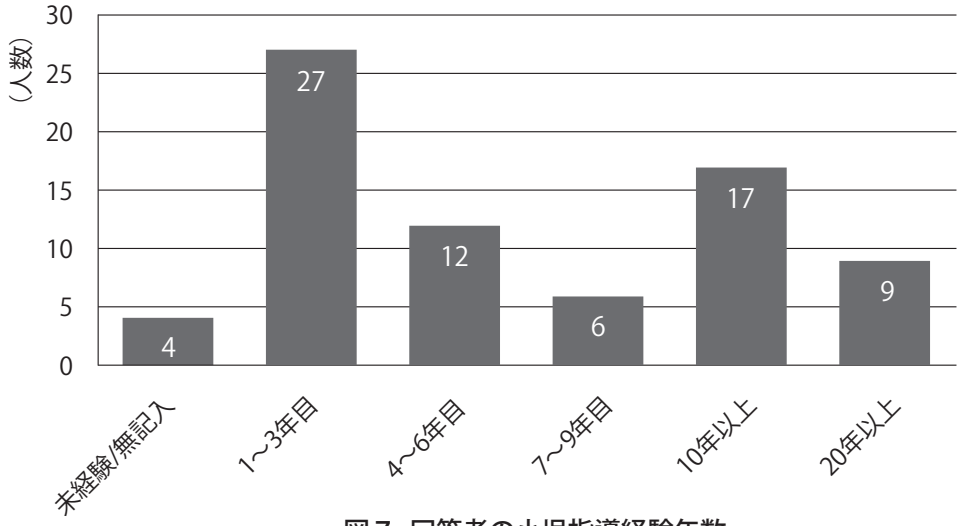


図７. 回答者の小児指導経験年数

（2）インターネット利用環境について

①インターネット回線

回答者が利用しているインターネット回線について選択肢から回答を求めた結果を図８に示した。光ファイバーが最も多く、次いで校内・構内LAN、ADSL、ケーブルテレビの順であり、ほとんどの回答者がフラッシュ動画を問題なく視聴できる環境にあった。

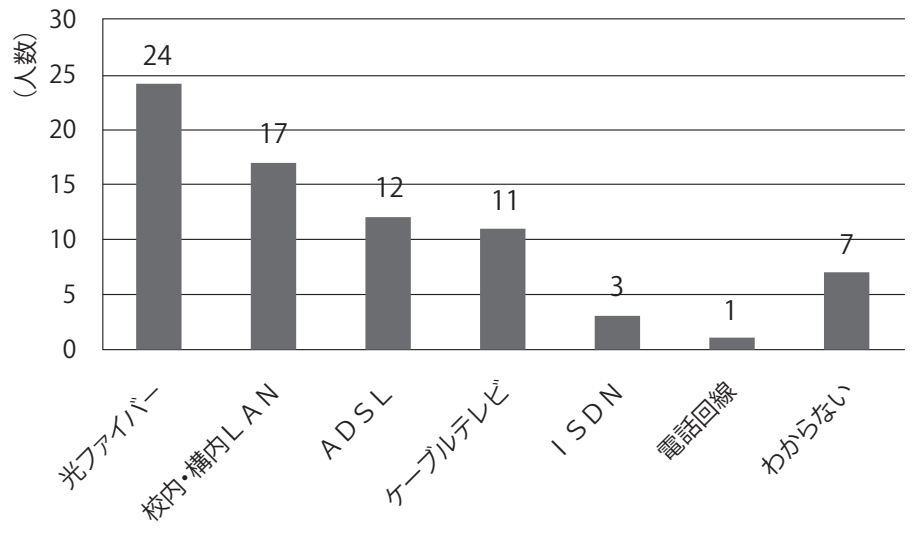


図８. インターネット回線

②使用しているOS

インターネット利用時に使用しているOSをたずねた結果、Windowsが50名、Macintoshが１名、WindowsとMacintoshの両方が１名、無記入17名であった。

（3）動画教材の画面表示について

①文字表示について

動画教材の文字表示について４選択肢から回答を求めた結果を図９に示した。「見やすい」と「やや見やすい」を合わせると80.0％であり、「見にくい」という回答も4.0％あった。概ね見やすいものの改善が必要な状態であると考えられた。

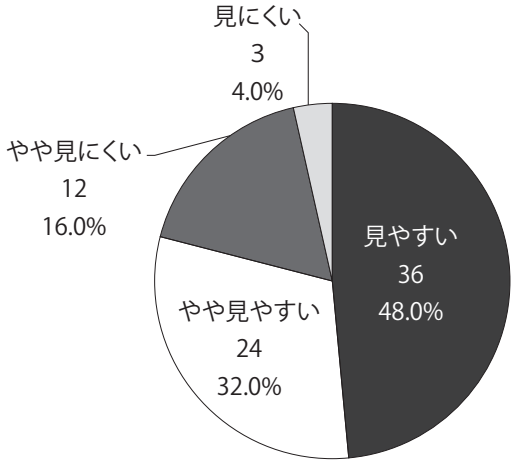


図９. 文字表示について

②レイアウトについて

動画教材のレイアウトについて４選択肢から回答を求めた結果を図10に示した。「よい」と「ややよい」を合わせると73.0％であった。「わるい」の回答はなかったが、改善が必要な状態と考えられた。

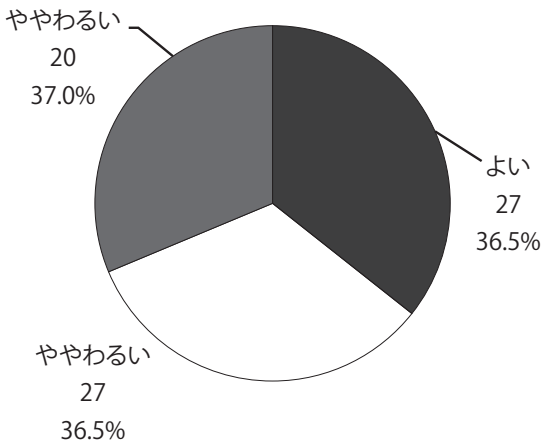


図10. レイアウトについて

③動画が見られるまでにかかる時間

動画が見られるまでにかかる時間について４選択肢から回答を求めた結果を図11に示した。「短い」と「やや短い」を合わせると83.8％であり、多くの回答者が待たさせるストレスが無く動画を視聴できたと考えられる。「長い」との回答も１名からあった。この回答者のインターネット回線は「光ファイバー」でありフラッシュ動画を視聴するには問題のない回線であった。このことから、この回答者のパソコンに何らかの不都合があったのではないかと考えられる。

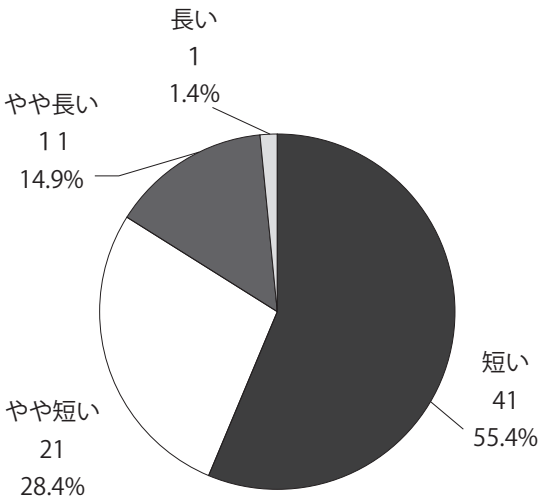


図11. 動画表示までの時間

④動画の画質

動画教材の画質について４選択肢から回答を求めた結果を図12に示した。「よい」よ「ややよい」を合わせると91.8％であり、多くの回答者が問題なく動画を見ることができたと考えられる。しかし「わるい」も2.7％回答があった。その理由を自由記述で尋ねたところ、「ディスプレィによってはザラザラであった」など回答者が使用する機器によっては画質がよくないことが考えられた。

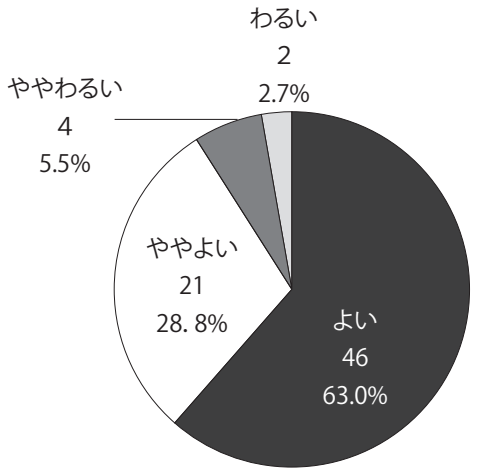


図12. 動画の画質

⑤動画の音質

動画教材の音質について４選択肢から回答を求めた結果を図13に示した。「よい」と「ややよい」を合わせると87.7％であり、多くの回答者が問題なく動画の音声を聞くことができたと考えられる。しかし「わるい」も2.7％回答があった。その理由を自由記述で尋ねたところ、「音がひずんでいる」「よく聞き取れない」などであったが、こうした記述とあわせて「（パソコンの）操作方法を知らないだと思う」とも記述されており、回答者のパソコン操作にも原因があると推測される。

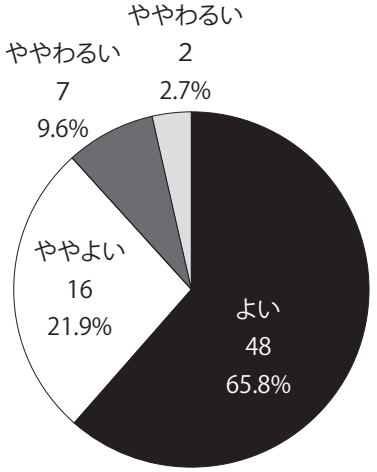


図13. 動画の音質

⑥動画の操作

動画教材の操作について４選択肢から回答を求めた結果を図14に示した。「わかりやすい」と「ややわかりやすい」を合わせると89.0％であった。「わかりにくい」は回答されなかった。動画の操作にはあまり問題はないと考えられた。

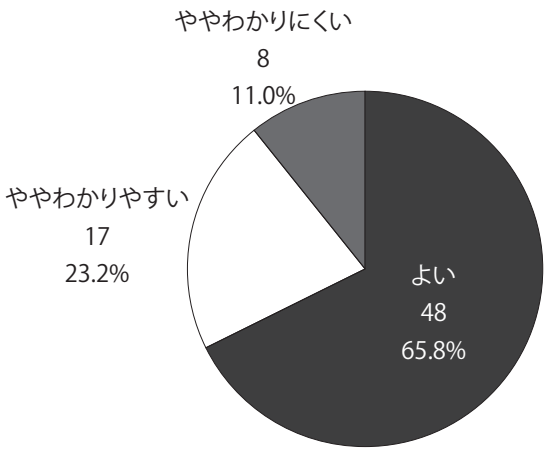


図14. 動画の音質

（４）動画教材の内容について

①動画教材の内容

動画教材の内容について４選択肢から回答を求めた結果を図15に示した。「わかりやすい」と「ややわかりやすい」を合わせると86.6％で「わかりにくい」は回答されなかった。多くの回答者にわかりやすい内容であったと考えられる。「ややわかりにくい」は13.3％回答があったが、その理由を自由記述で求めたところ「専門用語が多い」「イラストも入れた方がよい」などであった。

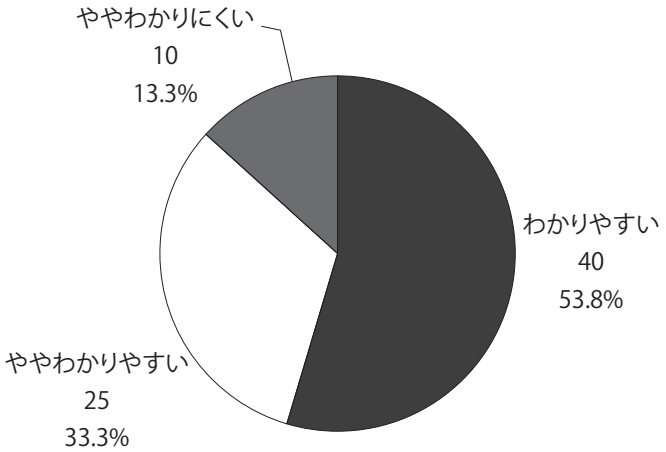


図15. 内容について

②回答者の構音指導に役立ったか

動画教材が回答者の構音指導に役立ったかについて４選択肢から回答を求めた結果を図16に示した。「役に立った」と「やや役になった」を合わせると98.6％であり、ほとんどの回答者に役立つ内容であったと考えられる。「あまり役にたたなかった」は１名1.4％から回答があった。その理由を自由記述で尋ねたところ「感覚統合や口腔ケア、呼吸リハビリが必要なタイプの小児を対象にしている」とのことであった。

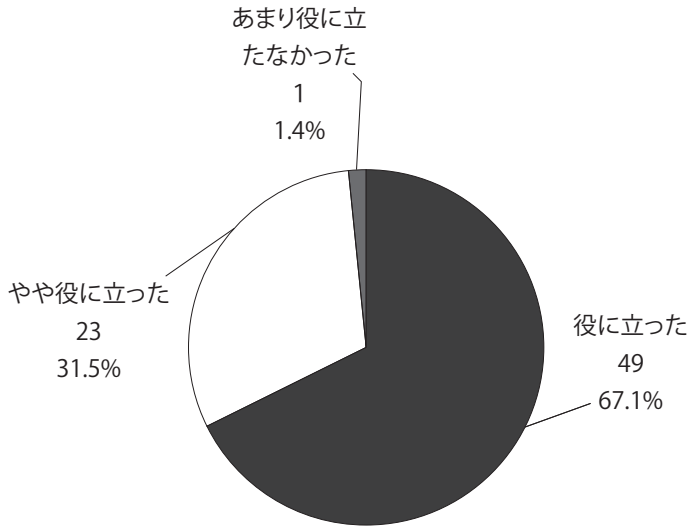


図16. 動画教材は担当者の役に立ったか

③この動画教材が保護者や子どもに使えるか

動画教材が保護者や子どもに使えるかについて４選択肢から回答を求めた結果を図17に示した。「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると62.0％であった。「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせると38.0％であった。「使えそうだ」と考えた回答者の方が多いが、「使えそうではない」と考えた回答者との差はわずかだった。

自由記述を見ると「そう思う」理由ついて、「説明しただけでは伝わらなくても、動画があると伝わりやすい」「高学年の子や保護者が自分の誤りがどういう状態かがわかる」などの回答があった。一方「そう思わない」理由としては「ＨＯＷ　ＴＯ的に利用すると危険」「基礎知識がないと難しいのではないかと感じた」などの回答があった。これらから、この動画教材は、保護者や子どもにも利用できる内容であるが、用い方について詳細な説明や担当指導者の解説や指示があることが望ましいと評価されたと考える。

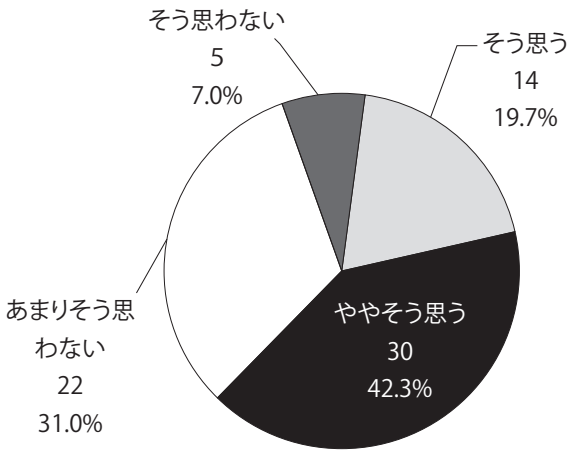


図17. この教材は保護者や子どもに使えるか

④この動画教材をこれからも見るか

4選択肢から回答を求めた結果を図18に示した。「見る」と「時々見る」を合わせると96.0％であり、多くの回答者にとって繰り返し見たい内容であったと考えられる。「見ない」は回答されなかった。

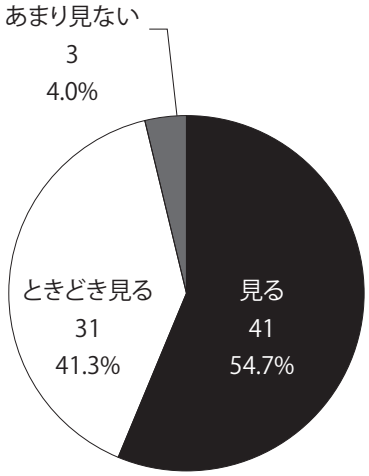


図18. この教材をこれからも見るか

3．評価アンケートの考察と実施した改善

評価結果から、動画教材の表示のうち、文字やレイアウトについては、改善が必要であると考えられた。この項目には自由記述を設けなかったので、具体的に何が問題であったかは明らかではなかったが、文字のフォント数を12ポイント以上にすることと、改行位置を修正するなどの改善を実施した。

動画教材が見られるまでの時間については、「長い」「やや長い」の回答もあって、動画の圧縮率を上げ、ファイルサイズを小さくする等の改善を検討した。しかしファイルサイズを小さくしてしまうと画質や音質の面で問題が生じる。今回のアンケートで動画が全く表示されなかったと

いう回答者は1名のみ（電話回線）であって、この回答者以外は時間はかかっても動画は視聴できていた。そこで動画の圧縮率を上げる（画質を落とす）ことはせず、現在のファイルサイズのままで提供することとした。

動画教材の画質、音質、操作については、あまり問題はないと判断した。しかし自由記述の内容から、表示画面のどこをクリックすると動画がみられるのかなど、ＷＥＢサイトの使い方やパソコンの基本的な操作について説明を増やすなどの改善を実施した。

動画教材の内容についてもあまり問題はないと考えられたが、自由記述の中に「専門用語が多い」等の指摘があったことを受け、用語解説の追加や一部表記の修正を行った。

この動画教材が回答者の役に立ったかについては、「役に立った」「やや役に立った」の合計が98.6％に達しており、本研究の目的のひとつである言語障害教育担当者の研修や知識・技能の向上に資する動画教材の提供については、達成できたと考える。

一方、この動画教材が保護者や子どもに使えるか、つまり家庭での学習に使えるかについては回答が分かれた。「そう思う」「ややそう思う」の合計は62.0％で、この結果からは６割強の回答者が家庭での学習に使えると考えている。しかし、「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計が38.0％に達しており、改善が必要であった。

改善策としては、まず、言語障害特別支援学級や通級指導教室等の担当者の指示の下で動画教材を使用するという方法が考えられる。つまり担当者が「次回の指導までにこのページを見て練習をするように」と指示をし、子どもは必要なページを見るという方法である。こうすることによって具体的に何をしたらよいかがわかり、家庭での練習が問題なく行われると思われる。

しかし、より根本的な改善として、子ども向けの動画教材を作成することが必要であると考えられる。これは本研究の範囲内では実施できなかった。今後新たな研究課題で子ども向けの動画教材の作成に取り組んでいく必要がある。

この動画教材を今後も見るかについては「見る」「ときどき見る」の合計が96.0％であり、繰り返し見るに堪えうる内容であったと考えられる。繰り返し見ることを考えるとDVDでの教材提供よりもWEB配信によるものの方が利便性が高いと思われる。

あとがき

言語障害特別支援学級や通級指導教室は、子どもや保護者の願いにこたえる形で多様な教育的ニーズに対応する指導を実施しています。現場にいらっしゃる先生方は多様な知識や教育的な技能を持つべく努力を積み重ねてこられました。その中でも構音障害に関する指導の知識、技能の獲得は時間がかかったり、テキストによる自習だけでは不十分であるなど、常に課題の大きいものであり続けています。

平成５年、通級による指導の制度化の年、全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会と本研究所とが共催で、言語障害特別支援学級や通級指導教室の先生方を対象にした研修会『はじめのいっぽ』を開始しました。現在も全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会の主催で、毎年大勢の先生方が熱心に学んでいらっしゃいます。その研修会を企画したのが豊田弘巳先生であり、豊田先生とともに初年度の運営にあたったのが久保山でした。そして、いつも満員の聴衆の中、大汗をかきながら構音障害の基礎基本を講じてきたのが、中澤洋子先生でした。この３人は、現場の先生方の苦労を受けとめつつ、少しでも容易に知識や技能を習得してもらえる方法はないかと構想を温めてきました。

さらに、言語障害通級指導教室の経験者でありながら、初任者の視点を大切にしている藤井良江先生、全国調査のとりまとめ役として現場の実態を把握してきた小林倫代が加わり、動画教材の内容を検討してきました。青山新吾先生、堅田利明先生、瀧澤聡先生には、貴重なご意見をいただいたり、評価にあたってご尽力いただきました。

今回、独立行政法人理化学研究所との共同研究で、構音障害指導の基礎基本部分をインターネットで配信する、という全く初めての試みが形になりました。技術的な面で貴重なアドバイスをいただき動画撮影に積極的に参画して下さった、理化学研究所の金子委利子氏に感謝したいと思います。

この動画教材は一度配信したから、それでよし、とは考えていません。これからも内容を吟味し、増やして行きながら一層の充実を図っていきたいと考えています。ご覧になったみなさまには、どうか忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

平成21年３月

研究代表者
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
企画部　主任研究員
久保山茂樹

平成19年度～平成20年度共同研究
『構音障害のある子どもが自ら学べる動画教材と配信技術の開発』研究成果報告書

平成21年３月　発行

編　集　　研究代表者　久保山　茂　樹
発行元　　独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所
住　所　　〒239-8585　神奈川県横須賀市野比5-1-1
電　話　　046-848-4121（代）
ファックス　046-839-6909
URL　　http://www.nise.go.jp